

(公財)北九州市芸術文化振興財団  
委託調査

北九州芸術劇場  
事業評価調査  
[報告書]

10

2014年3月  
ニッセイ基礎研究所



## ◎ はじめに

この報告書は、(公財)北九州市芸術文化振興財団から委託を受けて、ニッセイ基礎研究所が実施した「北九州芸術劇場 事業評価調査(その10)」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任(アカウンタビリティ)への関心の高まりなどを背景に、政府や公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっており、地方公共団体においても、政策評価から施策評価、事務事業評価という評価体系が定着している。しかし、文化施設や文化事業の評価には、その特性を踏まえた独自の評価体系や指標が必要であるという認識が広がり、各地で行われている評価も徐々に成熟したものとなりつつある。

北九州芸術劇場は、そうした動きに先立ち、2003年度の開館当初から独自の事業評価調査に継続的に取り組み、かつ、その成果を公開しており、公立文化施設の事業評価モデルとして全国から注目されている。

10年目にあたる2012年度調査では、継続調査として①劇場の運営データの分析、②主催事業および提携・協力事業公演の観客アンケート調査、③貸館利用に関するアンケート調査、④経済波及効果とパブリシティ効果の試算を実施した。その結果からは、これまでと同様に、北九州芸術劇場が着実に成果をあげ、北九州市の芸術文化の創造拠点・発信拠点として、鑑賞者や利用者から広く認知、支持されていることがうかがえる。また、今年度は⑤テーマ調査として、開館から10周年を迎えた北九州芸術劇場が、これまでの事業や運営の蓄積としてどんな成果を生み出してきたか、「北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化」と題して、設置目的に照らしながら、10年間の結果(アウトプット)、成果(アウトカム)、波及効果(インパクト)について検証し、総括を行っている。

末筆ではあるが、2003年度以降、10ヶ年にわたり、この貴重な調査の機会を与えていただいた(公財)北九州市芸術文化振興財団、劇場スタッフの方々、ならびに調査にご協力いただいた観客や利用者の方々に心より感謝申し上げるとともに、本調査の成果が今後の北九州芸術劇場の運営に有効に活用され、より一層、意義のある事業や活動が展開されることを願うものである。

2014年3月  
ニッセイ基礎研究所  
芸術文化プロジェクト室



## ◎ 目次

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成 .....	i
-----------------------------	---

### [本編]

第1章 2012年度事業の概要と実績 .....	3
第2章 観客の特性と観客からみた評価 .....	16
第3章 貸館利用者からみた評価 .....	26
第4章 経済波及効果とパブリシティ効果 .....	31
第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果 .....	37
第6章 北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、 文化・芸術環境の変化 .....	54

### [資料編]

資料Ⅰ 観客調査結果 .....	資-1
資料Ⅱ 貸館利用者調査結果 .....	資-55
資料Ⅲ 経済波及効果 .....	資-85
資料Ⅳ パブリシティ一覧 .....	資-99
資料Ⅴ 10年間の社会情勢、文化・芸術環境に関する 統計データ .....	資-107



## 序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

### 1. 調査研究の目的・内容

#### (1) 調査研究の目的

本調査研究は、2003年8月に開館した北九州芸術劇場について、毎年、事業や運営の評価に関する調査を行うとともに、その調査結果に基づいて、より良い劇場運営のあり方を検討することを目的としている。

10年目にあたる2012年度は、03年度あるいは04年度から継続して実施している、次の4つの調査(「継続調査」)

- ①劇場運営に関する基礎データの収集・分析
- ②公演に来場した観客を対象としたアンケート調査による公演事業に関する評価
- ③貸館利用者を対象としたアンケート調査による施設利用に関する評価
- ④北九州芸術劇場の経済波及効果とパブリシティ効果の算出

を実施した。さらに、12年度の「テーマ調査」として、

- ⑤北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化

を行い、2003年度から12年度までの10年間の事業評価の主要な項目について、ロジックモデルの考え方にに基づき、結果(アウトプット)、成果(アウトカム)、波及効果(インパクト)に整理、検証した。

#### (2) 調査の内容

##### ①劇場運営基礎データの収集・分析

事業数、公演回数、入場者・参加者数、施設稼働率など、劇場運営に関する基礎データを整理し、03年度から10年間の経年分析を行なった。

##### ②公演に来場した観客に対するアンケート調査

北九州芸術劇場の自主事業と提携・協力事業公演の観客を対象に、以下の2つの視点に基づいたアンケート調査を実施した(詳細は、p.資-1～資-54参照)。

- 事業評価の基礎となる北九州芸術劇場の施設やサービス、公演内容等に関する観客の満足度、ニーズの把握
- 劇場運営の基礎となる観客の属性(年齢、性別、居住地)、北九州芸術劇場における鑑賞行動(情報入手経路、鑑賞の動機、北九州芸術劇場での鑑賞回数)、日頃の鑑賞行動(鑑賞頻度、鑑賞ジャンル等)など、観客特性の把握

##### ③貸館利用者を対象としたアンケート調査の分析

貸館利用者を対象に05年度から実施している「施設利用に関するアンケート調査」の結果について、12年度分をとりまとめた(詳細は、p.資-55～資-83参照)。

##### ④経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は、p.資-85～資-97参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は、p.資-99～資-105参照)。

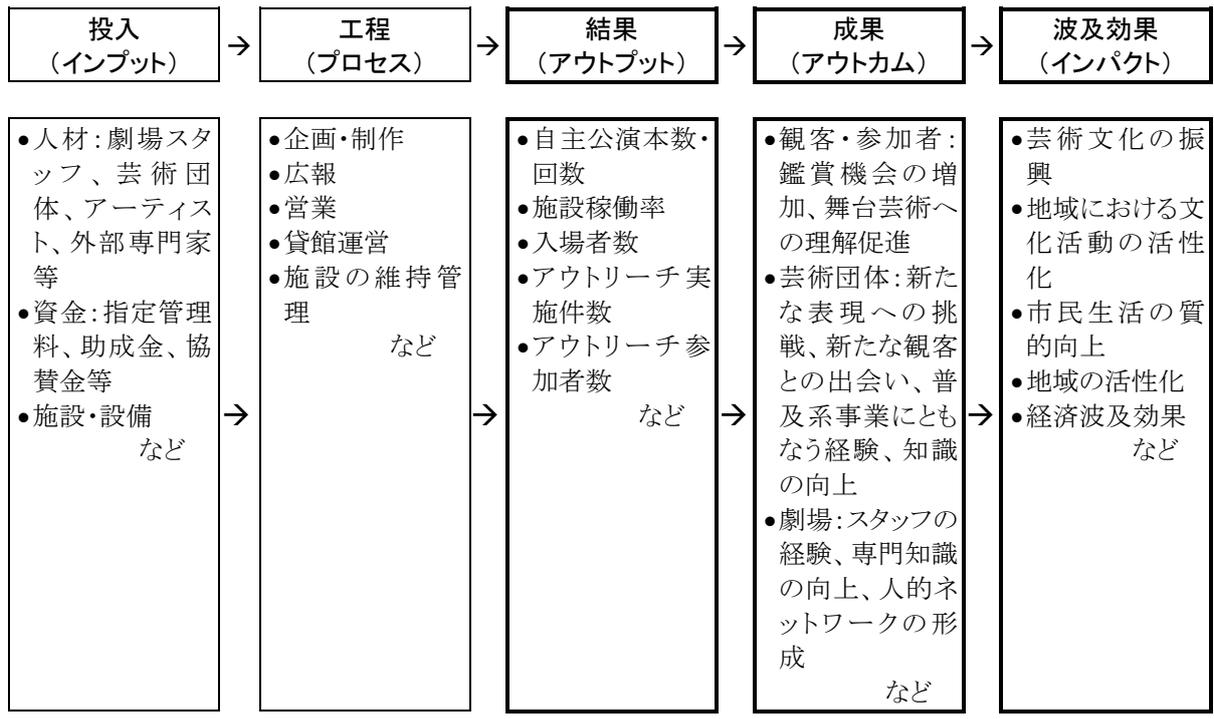
### ⑤北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化

03年度から12年度までの10年間の北九州芸術劇場の事業評価の主要な項目について、ロジックモデルの考え方にに基づき、結果(アウトプット)、成果(アウトカム)、波及効果(インパクト)に再整理した。併せて、既存の統計調査による社会情勢や文化・芸術環境の主な変化を整理し、北九州芸術劇場の実績と対比させて、10年間の事業評価調査の結果を総括した(詳細は、p.資-107～資-193参照)。

#### 参考:ロジックモデルについて

ロジックモデルは、施策やプログラムの最終的な成果が、その目的や目標に見合った成果かどうかを評価するための理論的なフレームワークで、目的や目標の達成に至るまでの論理的な因果関係を明らかにするものである。

具体的には、投入(インプット)、工程(プロセス)、結果(アウトプット)、成果(アウトカム)、波及効果(インパクト)の5つの要素によって構成されており、劇場の場合、各要素の内容は下図のとおりで、事業の実施や劇場運営によって生み出された結果(アウトプット)、アウトプットによってもたらされる短期的・中長期的な成果(アウトカム)、さらに事業や劇場運営によってもたらされる直接的・間接的な影響や波及効果(インパクト)の3つに分けて、評価が行われる。



## 2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内容は以下のとおりである。

### (1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる6つの章によって構成されている。

- 「第1章 2012年度事業の概要と実績」  
劇場運営の基礎データならびに事業収支を整理した。
- 「第2章 観客の特性と観客からみた評価」  
自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、①観客の属性、②公演や劇場に関する意見(公演やサービスへの満足度など)、③日頃の鑑賞行動について、整理・分析を行った。
- 「第3章 貸館利用者からみた評価」  
貸館利用者に対するアンケート調査の結果から、①劇場の施設、運営や対応に関する満足度、②重視項目について、調査結果の整理・分析を行った。
- 「第4章 経済波及効果とパブリシティ効果」  
産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。
- 「第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果」  
第1章から第4章までの調査結果を総合的に分析するため、次の評価フレームに沿って調査や評価の結果、改善のポイントなどを整理した。
  - A 劇場の設置目的:  
鑑賞系事業、創造系事業、普及系事業、市民文化活動支援、地域への貢献
  - B 運営・管理: 場の提供・支援、施設のホスピタリティ・サービス、施設の維持管理
  - C 経営: 経営体制、リサーチ&マーケティング、経営努力
- 「第6章 北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化」  
過去10年間の社会情勢、文化・芸術環境の変化として着目すべき既存の統計資料を基礎調査データとして収集し、その参照資料を一覧として整理した。評価フレームの「A. 劇場の設置目的」の項目ごとに、過去10年間の事業評価の主要な項目を、結果(アウトプット)、成果(アウトカム)、波及効果(インパクト)に再整理し、既存の統計調査による社会情勢や文化・芸術環境の主な変化と対比させて、10年間の事業評価調査の結果を総括した。

## (2) 資料編

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「観客調査結果」では、12年度の自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅱ「貸館利用者調査結果」では、08年度～12年度の5ヶ年の調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅲ「経済波及効果」では、12年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需要と消費支出など、経済波及効果、雇用効果算出のための分析資料を掲載した。
- 資料Ⅳ「パブリシティ一覧」では、金額換算の基礎となった12年度の新聞記事データの一覧を掲載した。
- 資料Ⅴ「10年間の社会情勢、文化・芸術環境に関する統計データ」では、過去10年間の社会情勢、文化・芸術環境の変化を把握する既存の統計資料の収集・分析の結果を掲載した。

◎ 調査研究体制

ニッセイ基礎研究所

吉本光宏(主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)

大澤寅雄(芸術文化プロジェクト室 准主任研究員)

吉田妙子(社会研究部 研究アシスタント)

北九州芸術劇場  
事業評価調査  
[本編]



## 第1章 2012年度事業の概要と実績

本章ではまず、事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2012年度の事業の実績について、過去データとともに整理した。

### 1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と12年度の事業概要は次のとおりである。

#### (1) 事業の基本方針

北九州芸術劇場では、「創る」「育つ」「観る」をキーワードにした事業展開が行われている。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。
- **【育つ】**: アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。
- **【観る】**: 見る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

#### (2) 事業の内容と実績、入場者数

- 12年度もこうした3つのコンセプトに基づき、自主事業全体で、38本の事業・305回の公演・アクティビティが行われ、35,358人が公演鑑賞やアクティビティに参加した(図表1-1)。

図表1-1 事業実績の概要(03年度～12年度)

【事業数・公演数・入場者数】

	2003年度			2004年度			2005年度			2006年度		
	事業数	公演数	入場者数									
創造事業	3	35	13,350	4	15	3,292	6	45	9,332	7	61	27,107
公演事業	15	35	22,079	23	46	26,361	24	42	21,294	18	45	29,813
提携・協力事業	5	8	7,382	6	15	6,211	6	13	6,642	7	16	7,259
オープニング企画	2	2	1,592	—	—	—	—	—	—	—	—	—
演劇祭	2	9	987	2	9	1,231	2	7	2,779	2	8	1,110
公演事業 計	27	89	45,390	35	85	37,095	38	107	40,047	34	130	65,289
	事業数	回数	参加者数									
学芸事業	—	219	2,404	—	320	4,734	—	297	6,327	—	291	6,758
総合計	27	308	47,794	35	405	41,829	38	404	46,374	34	421	72,047
公演事業の総座席数と入場率	総席数	入場率										
	50,756	89.4%		41,808	88.7%		48,575	82.4%		70,065	92.7%	

	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度		
	事業数	公演数	入場者数									
創造事業	5	24	5,224	8	41	12,320	6	40	12,841	5	21	3,124
公演事業	22	49	32,378	15	33	18,164	16	42	19,439	17	39	24,229
提携・協力事業	11	28	11,869	5	12	3,895	5	16	3,947	9	25	6,427
演劇祭	3	8	1,724	1	28	1,689	1	7	556	1	17	1,799
公演事業 計	41	109	51,195	29	114	36,068	28	105	36,783	32	102	35,579
	事業数	回数	参加者数									
学芸事業	—	283	6,200	—	279	10,577	—	175	5,889	—	178	5,404
総合計	41	392	57,395	29	393	46,645	28	280	42,672	32	280	40,983
公演事業の総座席数と入場率	総席数	入場率										
	60,036	85.3%		41,580	82.7%		39,225	93.8%		38,447	92.5%	

	2011年度			2012年度		
	事業数	公演数	入場者数	事業数	公演数	入場者数
創造事業	5	37	10,846	5	22	3,847
公演事業	19	42	14,036	18	43	18,517
提携・協力事業	8	12	2,229	9	20	2,996
演劇祭	1	44	1,605	6	17	4,098
公演事業 計	33	135	28,716	38	102	29,458
	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数
学芸事業	—	96	3,568	—	203	5,900
総合計	33	231	32,284	38	305	35,358
公演事業の総座席数と入場率	総席数	入場率		総席数	入場率	
	32,885	87.3%		28,316	90.2%	

※2008年度は、演劇祭は総座席数の設定をしていないため、演劇祭入場者数は入場率の算出から除いている。

※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として開催。

※2012年度の演劇祭では、一部客席数の設定をしていないため、総席数の設定のある公演のみを用いて入場率を算出している。

- 以下、「創る」「育つ」「観る」それぞれの事業ごとに、事業の内容と実績をとりまとめた。(12年度事業の実績一覧を図表1-2に整理した。)

①創る:創造事業

- 「創る」に対応した創造事業では、
  - 北九州芸術劇場、リヨン・ダンス・ビエンナーレ、パリ市立劇場、山海塾の共同プロデュースによる世界に発信する作品、「歴史いぜんの記憶—うむすな」
  - 北九州芸術劇場プロデュースとして全国に発信する作品、「LAND→SCAPE/海を眺望—街を展望」

- 市民参加型の創造事業である、合唱物語「わたしの青い鳥2012」、「北九州パントマイム教室」
- 演劇界の第一線で活躍する演出家を招き、地域の俳優によって国内外の魅力的な戯曲をリーディングとして上演する「リーディングセッション」といった事業が実施された。
- 「LAND→SCAPE/海を眺望→街を展望」は北九州(8回)、東京(4回)で公演が行われた。
- 12年度は5事業で22回の公演が行われ、入場者数は3,847人となっている。11年度と比べると、事業数は同じ件数だが公演数が15回の減少、入場者数はおよそ3分の1に減少している(図表1-1)。
- 入場率では「リーディングセッションvol.21」で101%、合唱物語「わたしの青い鳥2012」で84%となっている。「歴史いぜんの記憶ーうむすな」が68%となっているが、それ以外の公演の入場率は80%を超え、市民からの支持の高さがうかがえる。(図表1-2)。

## ②育つ:学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、
  - 「アーティスト往来プログラム」として、演劇・ダンス分野から多彩な講師を招いた「ワークショップ」、「アウトリーチ」
  - 高校生や高校の演劇部顧問を対象に、大ホール、中劇場、小劇場、創造工房を活用した「高校生のための演劇塾2012」
  - 韓国・仁川(インチョン)広域市の富平(プピョン)区の富平アートセンターとの共同による両国の小学生を対象としたアウトリーチ事業として、日韓子ども演劇キャンプ「チャレンジ! えんげき2012」のワークショップと交流プログラム
  - 戯曲講座から様々な講座を経て、スタッフワークや役者を担当するなど、劇団としての作品製作を体験する「シアターデモ」
  - 創造・公演(アウトリーチやワークショップ)参加として、合唱物語「わたしの青い鳥2012」、「ツドエ meets 北九州」、「北九州パントマイム教室」、公共ホール演劇ネットワーク事業「あなた自身のためのレッスン」

など、学芸事業全体では、創造参加も含め、15事業で203回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数は5,900人となっている(図表1-2)。

- 11年度と比べると、アクティビティの回数、参加者数ともに増加している(11年度の実績は96回、3,568人)。
- 今年度からの「シアターデモ」は、過去に継続して行っていた期間限定の劇団を作り公演を行う「シアターラボ」をリニューアルしたものである。2ヶ月間限定の劇団を芸術劇場スタッフを中心とした講師陣が指導するなど、北九州芸術劇場が有する施設、設備、人材など、あらゆる劇場の資源を活用した人材育成の試みとなっている。

## ③観る:公演事業

- 「観る」に対応した主催公演事業では、世界的に著名な演出家を迎えた「ピーター・ブルックの魔笛」をはじめ、NODA・MAP、イッセー尾形、ナイロン100°C、二兎社などの人気の高い小劇場・現代演劇公演、坂東玉三郎氏が芸術監督に就任して話題の鼓童による公演、「月猫えほん音楽会」や「大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2012」といった子どもを対象とした公演など、幅広い観客層を対象とした公演が実施された。
- 09年度に新たに始まった北九州芸術劇場が注目する演劇人たちをバックアップする「ツド

「E-meets北九州」では、単なる招聘公演ではなく、劇場とカンパニーが人材・技術を交流させながらネットワークを広げ、カンパニーの事情に応じた柔軟な支援を行った。

- 公演事業では19作品が上演され、公演数は43回、入場者数は18,517人となっている。11年度と比べると、公演数、入場者数はともに増加している(11年度の実績は42回、14,036人)。公演事業の入場率は93%と高く、19作品のうち13作品は90%以上を確保している(図表1-2)。
- 提携・協力事業では、伝統芸能や小劇場・現代演劇など9事業が上演され、公演数は20回、入場者数は2,996人であった。11年度と比べると、公演数、入場者数ともに増加している(11年度の実績は12回、2,229人)。
- 創造事業、公演事業、提携・協力事業、フェスティバルを含めた公演事業全体の公演作品数は38本、公演数は102回、入場者数は2,9458人である。公演事業の年間入場者数としては、昨年度に次いで少ない人数となっている(図表1-1)。

図表1-2 北九州芸術劇場 自主事業実績一覧(12年度)

1 創造事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2012」	中劇場	7/1	1	583	490	84%
2	北九州パントマイム教室(発表会)	創造工房	3/30	1	-	71	-
3	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.20「ジョン・シルバー」	小劇場	9/15~17	3	376	311	83%
	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.21 「≪不思議の国のアリスの≫帽子屋さんのお茶の会」	小劇場	2/2~4	3	408	414	101%
	計			6	784	725	92%
4	北九州芸術劇場×リヨン・ダンス・ビエンナーレ×パリ市立劇場×山海 塾共同プロデュース「歴史いぜんの記憶ーうむすな」	中劇場	1/26・27	2	1,134	775	68%
5	北九州芸術劇場プロデュース「LAND→SCAPE/海を眺望→街 を展望」 北九州公演	小劇場	11/13~18	8	982	806	82%
	〃 東京公演	あうるすぽっと	3/8~10	4	1,204	980	81%
	計			12	2,186	1,786	82%
	計			22	4,687	3,847	82%

2 公演事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	「ピーター・ブルックの魔笛」	中劇場	4/1	1	605	566	94%
2	彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 「シンペリン」	大ホール	4/27~29	3	3,567	3,526	99%
3	ナイロン100℃「百年の秘密」	中劇場	6/2・3	3	1,686	1,365	81%
4	NODA・MAP番外公演「THE BEE」	中劇場	6/7~10	5	3,005	2,801	93%
5	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2012 海外編	小劇場・創造工房	7/21・22	7	500	502	100%
6	イッセー尾形のこれからの生活2012in小倉	中劇場	7/28・29	2	1,242	1,047	84%
7	「月猫えほん音楽会2012」	中劇場	8/2	1	612	535	87%
8	劇団500歳の会 「いつか見た男達〜ジェネシス〜」	中劇場	8/18	1	610	549	90%
9	子供のためのシェイクスピア「リチャード三世」	中劇場	9/2	1	598	336	56%
10	「劇トツ×20分」	創造工房	9/23	1	65	65	100%
11	ツトエmeets北九州vol.8 マームとジプシー 「ワタシんち、通過。のち、ダイジェスト」	小劇場	9/28~30	4	280	264	94%
	ツトエmeets北九州vol.9 village80%「輪郭、ほどけて隣に。」	小劇場	12/15・16	3	232	178	77%
	計			7	512	442	86%
12	「鼓童ワン・アース・ツアー2012〜伝説」	中劇場	10/7	1	700	683	98%
13	公共ホール演劇ネットワーク事業 「あなた自身のためのレッスン」	中劇場 (舞台上客席)	10/20・21	2	200	178	89%
14	劇団、本谷有希子 第16回公演 「遭難、」	中劇場	11/6	1	450	426	95%
15	ラッパ屋第39回公演「おじクロ」	中劇場	11/23	1	598	561	94%
16	二兎社+公立劇場共同制作 「こんばんは、父さん」	中劇場	12/1・2	2	1,292	1,304	101%
17	Doris & Orega Collection Vol.6「地球の王様」	中劇場	12/23・24	2	1,266	1,230	97%
18	ミュージカル「100万回生きたねこ」	大ホール	2/9・10	2	2,332	2,401	103%
	計			43	19,840	18,517	93%

3 北九州演劇フェスティバル2013

1	プレ企画 劇的商店街!!(浅田政志ワークショップ)	創造工房、京町 銀天街ほか	11/19~ 12/20	6	17	102	-
	写真展示	リバーウォーク 北九州1F		-	-	-	-
	京町小屋	京町小屋	2/11~24	-	-	1,549	-
	まちなか ラブ♥リーディングvol.1~vol.6	京町内店舗		6	-	144	-
	フェスティバル・パレー団「みんなで踊ろう! 愛のダンスパレード」	京町周辺		-	-	1,474	-
	京町♡寄席	京町小屋及び 京町銀天街	2/16・17	2	-	652	-
	シアターデモ2013リーディング公演「みつことコトニ、大髻筋。」	創造工房	2/16・17	3	180	177	98%
	計			17	197	4,098	98%

※シアターデモ2013リーディング公演以外は客席数を定めていないため、計の入場率の算定には含めていない。

#### 4 提携等事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	サンプル「自慢の息子」 (提携公演)	小劇場	4/14・15	2	232	211	91%
2	土田英生セレクションvol.2「燕のいる駅」(提携公演)	中劇場	6/17	1	598	390	65%
3	ハイハイ「ボンボン お前の自意識に小刻みに振りたくなるんだボンボン」 (提携公演)	小劇場	8/12・13	3	378	340	90%
4	飛ぶ劇場vol.33 「機械が見れる夢が欲しい」(提携公演)	小劇場	11/22~25	6	660	609	92%
5	「春風亭小朝独演会」 (協力公演)	中劇場	11/1	1	700	633	90%
6	リージョナルシアター事業 (共催事業)	小劇場	12/3~7	-	-	11 <sup>※</sup>	-
7	イキム「The Library of Lifeまとめ*図書館の人生(上)」(提携公演)	中劇場	12/16	1	382	254	66%
8	南河内万歳一座「お馬鹿屋敷」 (提携公演)	小劇場	1/13・14	3	318	273	86%
9	MONO第40回公演「うぶな雲は空で迷う」(提携公演)	小劇場	3/16・17	3	324	286	88%
計				20	3,592	2,996	83%

※リージョナルシアター事業は入場率から除く。

合計(創造・公演・提携・協力事業)				102	28,316	29,458	90%
-------------------	--	--	--	-----	--------	--------	-----

#### 5 学芸事業

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
1	コンテンポラリーダンス推進事業						
	ダンス×音楽ライブ「タタタタタタ」	甲宗八幡神社	7/7	1	一般	125	125
	*テニスコーツ母校訪問コンサート	鞘ヶ谷小学校	6/1	1	小学生	49	49
	学園祭やぶり						
	稽古	創造工房ほか	8/22~10/26	23	一般(オーディション)	9	207
2	本番	北九州市立高校 九州女子大学 北九州市立大学 北九州工業高等専門学校	10/27, 11/2・3	4	一般	400	400
	計			29		583	781
2	アーティスト往来プログラム						
	講師:阿部初美 ワークショップ	創造工房	11/1~2/6	5	一般	18	90
	アウトリーチ	藤松小学校	1/23	1	一般	3	3
	講師:伊藤キム アウトリーチ	安川電機	12/18~2/5	10	小学生	55	275
	講師:セレノグラフィカ インリーチ	八幡小学校	8/3	1	社会人	14	14
	アウトリーチ	八幡小学校	8/29	1	教師	19	19
	ワークショップ	創造工房、東筑紫高校	9/27~10/2	6	小学生	81	162
	ワークショップ	創造工房、東筑紫高校	9/28, 10/3・19	3	東筑紫高校生	16	48
	ワークショップ	門司港美術工芸研究所	9/29, 11/4	2	一般	90	90
	パフォーマンス	旧門司税関	11/4	2	一般	80	80
	講師:福田修志 アウトリーチ	則松小学校	11/26・27	4	小学生	71	142
	講師:有門正太郎プレゼンツ アウトリーチ	塔野江小学校	11/29・30	4	小学生	47	94
	泉台小学校	10/9	2	小学生	56	56	
	白野江小学校	10/11	2	小学生	41	41	
	東朽網小学校	10/12	1	小学生	34	34	
	ワークショップ	折尾駅周辺	3/23・24	2	一般	30	30
計				46		655	1,178
3	「高校生のための演劇塾2012」モデル作品稽古		7/26~8/8	13		6	78
	本番	大ホール・中劇場 小劇場・創造工房	8/9	1	高校生等	6	6
	計		8/9~11	3		141	381
4	日韓子ども演劇キャンプ「チャレンジ! えんげき2012」						
	国内ワークショップ	小劇場		2	小学生	15	30
	韓国ワークショップ・交流プログラム	富平アートセンター	7/23~30	5	日韓小学生	30	150
	作品発表会			1	保護者・一般	104	104
計				8		149	284
5	人形劇俳優“たいらじょう”人形劇ワークショップ	稽古場	11/10	1	祖父母と孫	18	18
		子育てふれあい交流プラザ	11/8・9	3	乳幼児と保護者	84	84
	計				4		102

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
6	シアターデモ2013						
	誰にでも書ける、あなたにしか書けない戯曲講座	創造工房	6/30	1	高校生以上	19	19
	本格的戯曲講座	北九州芸術劇場	7/17~11/19	9	選出	3	27
	シアターデモ2013 面接とワークショップ	創造工房	12/8	1	高校生以上	24	24
	シアターデモ2013 講座・作業・稽古・公演(参加者)	創造工房・中劇場	12/26~2/17	21	高校生以上	22	452
	シアターデモ 稽古場利用モデル公演 超人気族第2回公演「ハレルヤ」	創造工房	8/24~26	4	一般	171	171
計				36		239	693
7	劇場塾2012 地域のアーツマネージャー養成講座	小劇場	12/10・11	2	一般・学生	21	42
	舞台技術講座音響編	大ホール・中劇場	12/18・19	2	ホール関係者等	59	118
	計				4		80
8	北九州芸術劇場+市民共同リーディング5つの街の話 ~Re:北九州の記憶~ 戯曲講座	北九州芸術劇場、市内各所	7月~2月	20	地域の若手表現者	5	100
	ワークショップ(稽古)	小劇場	12/25~3/1	5	地域住民・地域の若手表現者	13	50
	リーディング公演	小劇場	3/2・3	2	一般	244	244
	計				27		262
<b>【創造・公演(アウトリーチ&amp;ワークショップ等)参加】</b>							
1	合唱物語「わたしの青い鳥」2012《ワークショップ》 《アウトリーチ》	中劇場ほか	5/18~6/30	14	小学生~一般	103×2回	1,418
		貴船小学校	5/25	1	小学生	101×12回	33
2	ツトmeets北九州vol.8 マームとジプシー 「ワタシんち、通過。のち、ダイジェスト」《ワークショップ》	創造工房	7/4~6	3	一般	各24	72
3	ツトmeets北九州vol.9 village80% 「輪郭、ほどけて隣に。」《ワークショップ》	創造工房	12/10・11	2	一般	13	13
4	月猫えほん音楽会2012《ワークショップ》	小劇場	8/1	1	親子	25	25
5	二兎社+公立劇場共同制作「こんばんは、父さん」 《トークイベント》	創造工房	8/18・19	2	一般	58	58
6	公共ホール演劇ネットワーク事業 「あなた自身のためのレッスン」《アウトリーチ》 《ワークショップ》	菊陵中学校	10/15・17	2	中学生	77	77
		東谷中学校	10/16	1	中学生	32	32
		中劇場	10/16	1	一般	25	25
7	北九州パントマイム教室《ワークショップ》	創造工房	3/26~29	5	小学3~6年生	18	90
計				32		408	1,843
合計(学芸事業)				203		2,631	5,900
総合計				305		35,358	

#### ④貸館事業

- 貸館事業では、市主催事業、財団主催事業も含め、12年度に公演や講演など、計247事業が開催された。公演・講演数は319回、貸館事業の入場者数は169,359人となっている。

#### ⑤利用者数、利用件数

- 観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館事業の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数は図表1-3のとおりで、12年度には自主事業、貸館事業合わせて1,696件の利用があり、利用者数は約28万人となっている。そのうち、自主事業での利用件数は645件、利用者数は約4万2千人。貸館事業での利用件数は1,051件、利用者数は約23万人である。
- 11年度と比べて自主事業の利用件数は増えて、貸館事業は減っている。自主事業と貸館事業を含めた合計は、利用件数は増えて、利用者数は減っている。

図表1-3 利用者数、利用件数(03年度～12年度)

	2003年度				2004年度				2005年度			
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計
自主事業	23,937 (66)	22,890 (143)	7,402 (121)	54,229 (330)	22,445 (87)	29,970 (242)	16,996 (404)	69,411 (733)	13,034 (102)	33,153 (289)	14,592 (471)	60,779 (862)
貸館事業	93,100 (205)	41,524 (145)	10,769 (99)	145,393 (449)	175,273 (482)	71,901 (325)	13,626 (176)	260,800 (983)	160,673 (467)	55,644 (229)	10,478 (130)	226,795 (826)
合計	117,037 (271)	64,414 (288)	18,171 (220)	199,622 (779)	197,718 (569)	101,871 (567)	30,622 (580)	330,211 (1,716)	173,707 (569)	88,797 (518)	25,070 (601)	287,574 (1,688)

	2006年度				2007年度				2008年度			
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計
自主事業	26,027 (139)	29,814 (298)	15,651 (573)	71,492 (1,010)	34,015 (186)	29,182 (325)	17,837 (564)	81,034 (1,075)	17,877 (134)	17,699 (217)	14,661 (462)	50,237 (813)
貸館事業	134,966 (382)	55,050 (244)	8,853 (146)	198,869 (772)	132,444 (381)	58,491 (237)	10,772 (148)	201,707 (766)	133,686 (365)	77,324 (327)	17,281 (226)	228,291 (918)
合計	160,993 (521)	84,864 (542)	24,504 (719)	270,361 (1,782)	166,459 (567)	87,673 (562)	28,609 (712)	282,741 (1,841)	151,563 (499)	95,023 (544)	31,942 (688)	278,528 (1,731)

	2009年度				2010年度				2011年度			
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計
自主事業	7,625 (64)	22,087 (213)	12,873 (318)	42,585 (595)	21,429 (104)	16,140 (159)	12,457 (316)	50,026 (579)	2,979 (25)	20,838 (230)	11,947 (337)	35,764 (592)
貸館事業	138,611 (415)	86,166 (369)	18,186 (267)	242,963 (1,051)	155,767 (441)	88,614 (367)	16,967 (269)	261,348 (1,077)	163,922 (503)	70,958 (319)	19,011 (268)	253,891 (1,090)
合計	146,236 (479)	108,253 (582)	31,059 (585)	285,548 (1,646)	177,196 (545)	104,754 (526)	29,424 (585)	311,374 (1,656)	166,901 (528)	91,796 (549)	30,958 (605)	289,655 (1,682)

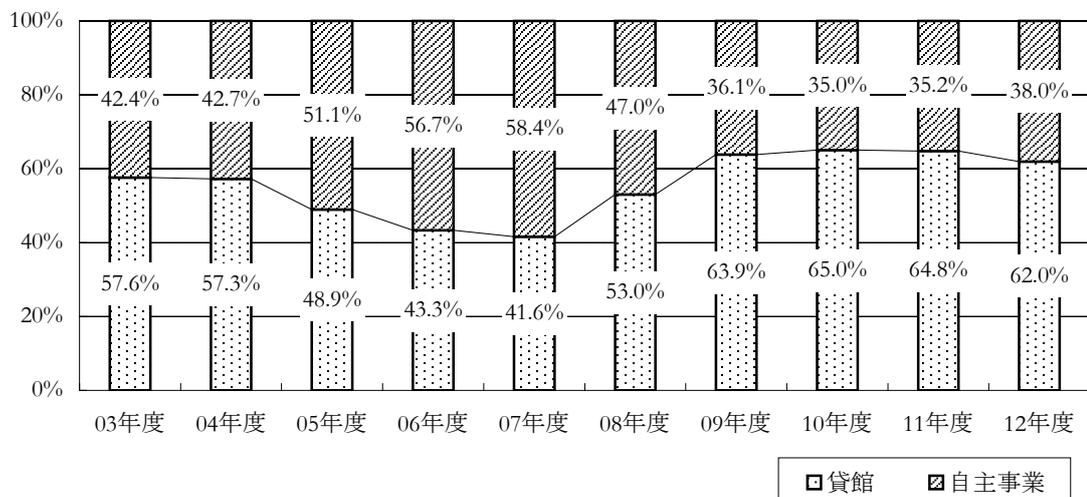
  

	2012年度				累計
	大ホール	中劇場	小劇場	計	
自主事業	10,696 (80)	18,158 (197)	12,954 (368)	41,808 (645)	557,365 (7,234)
貸館事業	139,621 (470)	75,782 (340)	18,014 (241)	233,417 (1,051)	2,253,474 (8,983)
合計	150,317 (550)	93,940 (537)	30,968 (609)	275,225 (1,696)	2,810,839 (16,217)

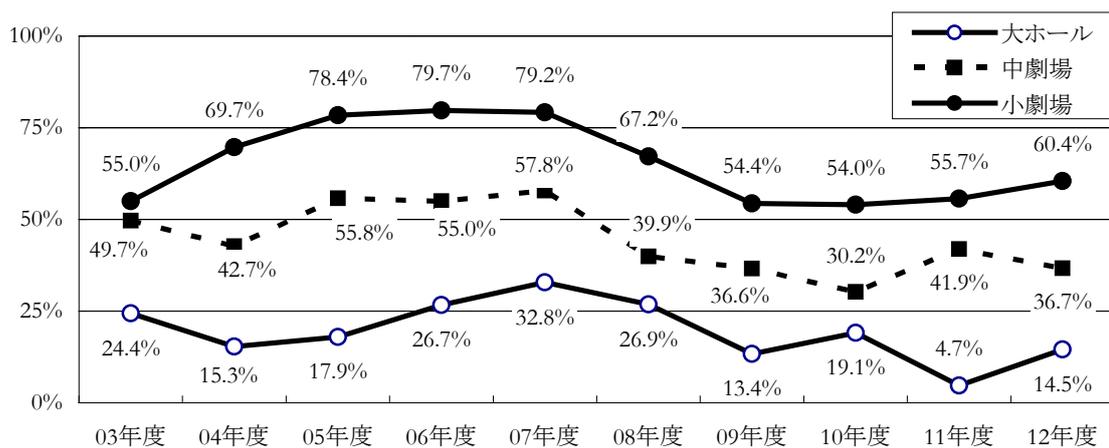
※上段の数字が利用者数(単位:人)、下段( )内の数字は利用件数

- 自主事業と貸館事業の比率を利用件数ベースで見ると、12年度は、自主事業が38.0%、貸館事業が62.0%と、貸館事業の利用割合が高くなっている(図表1-4)。
- ホールの規模別にみると、大ホールで貸館事業での利用が多く、中劇場と小劇場で自主事業の利用が多いことは、03年度からの変わらない傾向となっている。11年度に比べて大ホールと小劇場で自主事業利用の比率が伸びている(図表1-5)。
- 小劇場の自主事業比率が高いのは、リーディングセッションやプロデュース公演「LAND→SCAPE/海を眺望→街を展望」をはじめとする創造事業・創造参加の場として、中劇場では幅広い観客層を対象とした人気の高い公演事業に活用しているためであり、3つの劇場それぞれの役割と用途が明確になっているものと考えられる。

図表1-4 自主事業・貸館事業比率 [件数ベース](03年度～12年度)



図表1-5 ホール別の自主事業比率 [件数ベース](03年度～12年度)



### (3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の12年度の施設稼働率は、大ホールが82.2%、中劇場が73.9%、小劇場が79.5%である(図表1-6)。
- 3つのホールの稼働率は、開館年の03年度を除き、約70～80%で推移しており、2012年度の(財)地域創造の悉皆調査結果(2010年10月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は72.2%)と比較して高い水準にある。

図表1-6 北九州芸術劇場の稼働率(03年度～12年度)

	2003年度			2004年度			2005年度		
	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	99	100	83	219	207	220	223	189	222
利用対象日数	103	107	86	277	283	304	281	276	297
稼働率	96.1%	93.5%	96.5%	79.1%	73.1%	72.4%	79.4%	68.5%	74.7%

	2006年度			2007年度			2008年度		
	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	202	199	254	220	205	257	192	203	249
利用対象日数	285	282	306	290	289	300	257	260	295
稼働率	70.9%	70.6%	83.0%	75.9%	70.9%	85.7%	74.7%	78.1%	84.4%

	2009年度			2010年度			2011年度		
	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	194	212	221	215	197	225	211	202	234
利用対象日数	262	260	282	261	267	285	274	273	299
稼働率	74.0%	81.5%	78.4%	82.4%	73.8%	78.9%	77.0%	74.0%	78.3%

	2012年度		
	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	217	204	237
利用対象日数	264	276	298
稼働率	82.2%	73.9%	79.5%

注) 稼働率は「稼働日数/利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

## 2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について、過去9ケ年と同様の分析を行った。

### (1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の12年度の事業費は約2億1,000万円となっており、11年度からやや減少しており、過去の事業費と比較して最も少ない事業費となっている。
- 財源内訳をみると、チケット収入が約1億円で全体の46.6%、市の補助金が約8,600万円で40.1%、文化庁と(財)地域創造による外部資金が約2,800万円で13.2%となっている。チケット収入と外部資金で事業費の約6割(59.9%)をカバーしている(図表1-7)。
- 全国平均の試算値<sup>\*</sup>と比較すると、12年度のチケット収入の割合は平均を上回っている(図表1-8)。過去のチケット収入の割合の最高は2010年度の68.1%で、11年度(52.9%)、12年度

(46.6%)と割合が減少している。

※(財)地域創造の悉皆調査結果(2007年)から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると、「設置者からの補助金・委託費」が52.7%、「事業収入」が36.6%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」が10.7%である。

※指定管理施設の平成18年度決算金額平均値の「収入」欄から、「事業補助金」、「事業委託費」(いずれも設置者からの収入)、「事業収入」、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」の4項目を事業費財源と設定し、それぞれの内訳比率を算出した。

図表1-7 事業費の財源内訳(03年度～12年度)

(千円)

	2003年度		2004年度		2005年度	
	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳
チケット収入	215,389	54.1%	145,429	43.2%	110,060	37.0%
市補助金	112,225	28.2%	124,198	36.9%	121,965	41.0%
外部資金	70,700	17.7%	67,000	19.9%	65,295	22.0%
文化庁	49,000	(12.3%)	49,000	(14.6%)	45,795	15.4%
地域創造	10,000	(2.5%)	18,000	(5.3%)	19,500	6.6%
その他助成金	11,700	(2.9%)	—	—	—	—
協賛金	—	—	—	—	—	—
計	398,314	100.0%	336,627	100.0%	297,320	100.0%

	2006年度		2007年度		2008年度	
	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳
チケット収入	263,901	61.4%	197,355	52.4%	135,979	42.2%
市補助金	106,363	24.7%	127,456	33.8%	136,854	42.4%
外部資金	59,517	13.8%	52,051	13.8%	49,579	15.4%
文化庁	45,800	(10.7%)	36,600	(9.7%)	27,400	(8.5%)
地域創造	13,717	(3.2%)	15,451	(4.1%)	22,179	(6.9%)
その他助成金	—	—	—	—	—	—
協賛金	—	—	—	—	—	—
計	429,781	100.0%	376,862	100.0%	322,412	100.0%

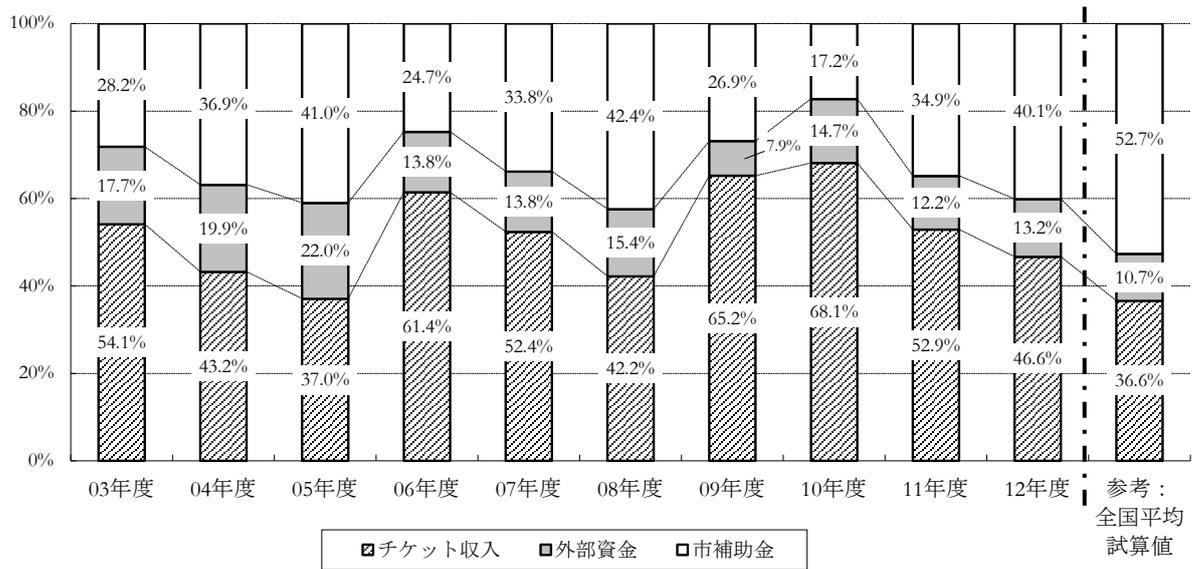
  

	2009年度		2010年度		2011年度	
	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳
チケット収入	202,004	65.2%	149,051	68.1%	123,355	52.9%
市補助金	83,331	26.9%	37,726	17.2%	81,302	34.9%
外部資金	24,432	7.9%	32,072	14.7%	28,509	12.2%
文化庁	18,000	(5.8%)	11,000	(5.0%)	26,902	(11.5%)
地域創造	6,432	(2.1%)	10,572	(4.8%)	1,607	(0.7%)
その他助成金	—	—	—	—	—	—
協賛金	—	—	10,500	(4.8%)	—	—
計	309,767	100.0%	218,849	100.0%	233,166	100.0%

	2012年度	
	金額	内訳
チケット収入	99,616	46.6%
市補助金	85,741	40.1%
外部資金	28,262	13.2%
文化庁	25,349	(11.9%)
地域創造	2,165	(1.0%)
その他助成金	748	(0.4%)
協賛金	—	—
計	213,619	100.0%

図表1-8 事業費の比率(03年度～12年度)



(2) 事業収支

- 12年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約240万円の減収、補助金等収入は約4,800万円の減収となっている。12年度は事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった(図表1-9)。
- 劇場の運営、事業の実施にあたって、経費節減の努力を行っていると同時に、積極的な営業努力を行なっていることがうかがえる。

図表1-9 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額(03年度～12年度)

(千円)

	2003年度			2004年度			2005年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	194,300	215,389	△ 21,089	146,346	145,429	917	130,500	110,060	20,440
下段:全体に占める割合	48.6%	54.1%	—	41.1%	43.2%	—	37.3%	37.0%	—
補助金等収入	205,700	182,925	22,775	209,300	191,198	18,102	219,500	187,260	32,240
	51.4%	45.9%	—	58.9%	56.8%	—	62.7%	63.0%	—
市補助金	135,000	112,225	22,775	135,000	124,198	10,802	151,000	121,965	29,035
助成金	70,700	70,700	0	74,300	67,000	7,300	68,500	65,295	3,205

	2006年度			2007年度			2008年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	265,709	263,901	1,808	212,173	197,355	14,818	269,172	135,979	133,193
	53.9%	61.4%	—	50.2%	52.4%	—	54.1%	42.2%	—
補助金等収入	227,531	165,880	61,651	210,800	179,507	31,293	228,412	186,433	41,979
	46.1%	38.6%	—	49.8%	47.6%	—	45.9%	57.8%	—
市補助金	145,000	106,363	38,637	149,000	127,456	21,544	149,000	136,854	12,146
助成金	82,531	59,517	23,014	61,800	52,051	9,749	79,412	49,579	29,833

	2009年度			2010年度			2011年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	157,949	202,004	△ 44,055	110,503	149,051	△ 38,548	140,284	123,355	16,929
	44.7%	65.2%	—	43.9%	68.1%	—	45.8%	52.9%	—
補助金等収入	195,470	107,763	87,707	141,200	69,798	71,402	166,136	109,811	56,325
	55.3%	34.8%	—	56.1%	31.9%	—	54.2%	47.1%	—
市補助金	135,000	83,331	51,669	108,000	37,726	70,274	128,000	81,302	46,698
助成金	60,470	24,432	36,038	33,200	32,072	1,128	38,136	28,509	9,627

	2012年度		
	予算額	決算額	差異
事業収入	101,983	99,616	2,367
	38.6%	46.6%	—
補助金等収入	162,000	114,003	47,997
	61.4%	53.4%	—
市補助金	128,000	85,741	42,259
助成金	34,000	28,262	5,738

## 第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、主催事業および提携・協力事業の公演に会場した観客に対するアンケート調査の結果から、2012年度の観客の特性や、観客からみた北九州芸術劇場に対する評価を整理、分析した。

### 1. 観客調査の実施要領

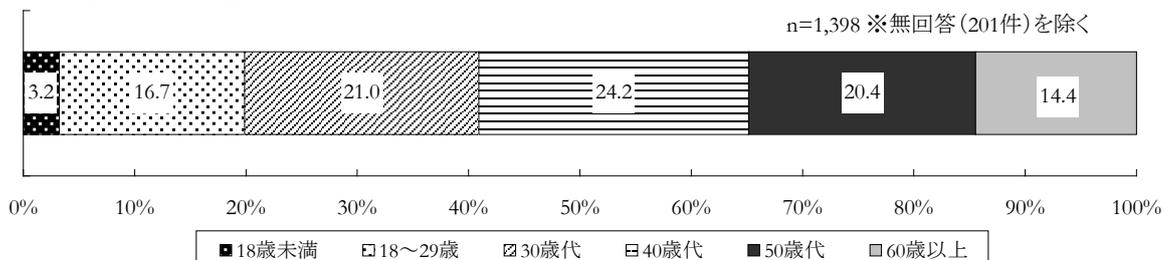
- 調査の対象:2012年度に実施した主催事業および提携・協力事業公演 35公演
- 配布・回収方法:各公演初日の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期:2012年4月1日～2013年3月16日
- 有効回答数(回収率):1,599件、回収率:14.0% (配布数:11,678件)

### 2. 観客調査の結果概要

#### (1)観客(アンケート回答者)の属性 (p.資-10～19)

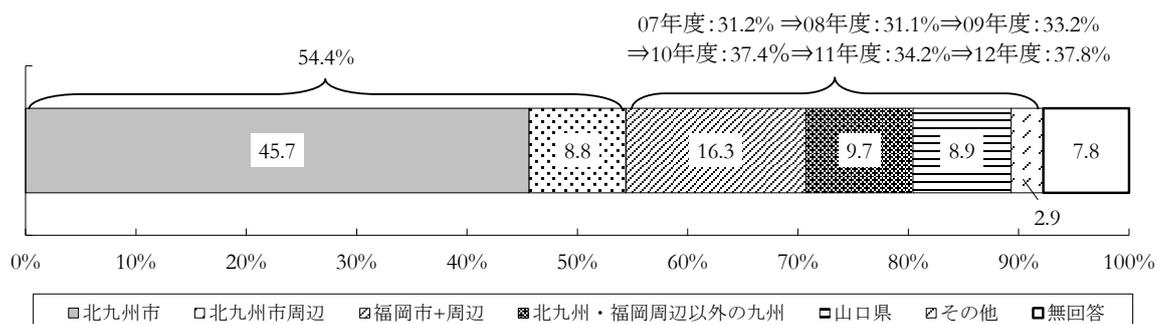
- 観客は、女性が75.8%、男性が24.2%と女性が多い。ジャンルによって若干男女比は異なり、「ダンス・現代舞踊」、「音楽劇」、「小劇場・現代演劇」では全体に比べて男性の割合が高い傾向がある。
- 平均年齢は42.9歳。年齢層に大きな偏りはなく、幅広い年齢層が来場している(図表2-1)。平均年齢に関しては、03年度が45.5歳で、04年から08年度までは42.0歳～43.4歳の範囲で上下し、11年度は41.4歳と過去に比べて低年齢化し、12年度には若干高齢化して42.9歳となった。過去9年間の推移を見ると一定の年齢を維持できている。
- ジャンルによって年齢構成は異なり、「古典芸能」で年齢層が高い(平均年齢:52.9歳)。

図表2-1 年齢層(12年度)



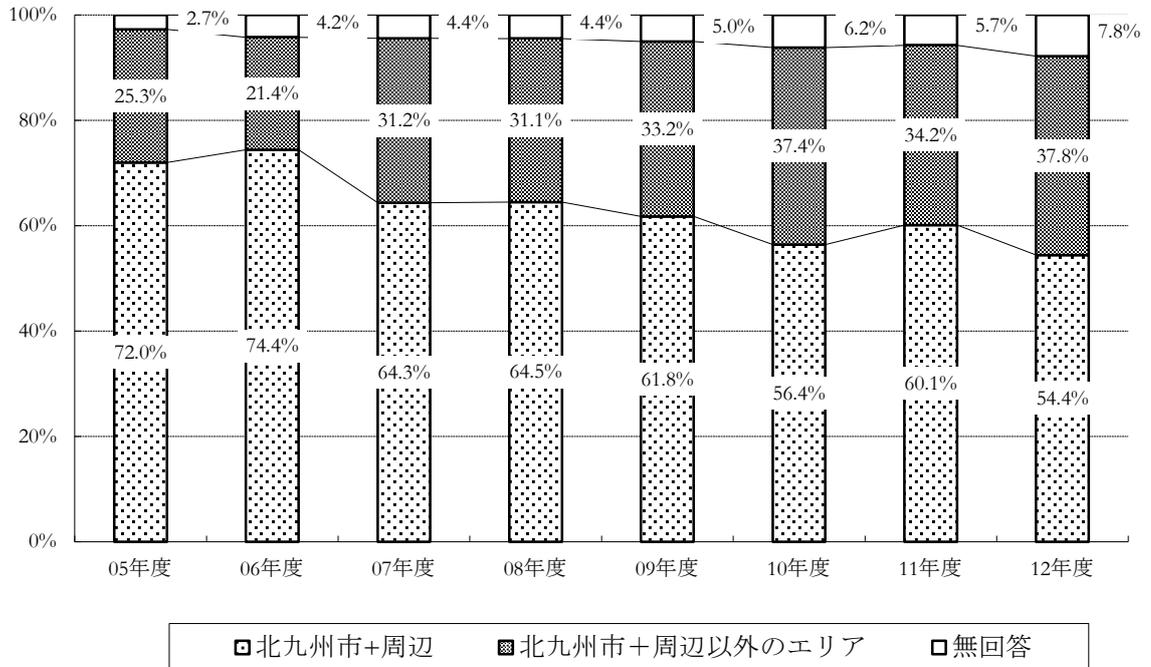
- 居住地は、北九州市周辺を含めた市域からの来場者が54.4%(うち北九州市内が45.7%)である。福岡市域や福岡県以外の九州各県、山口県、その他からの12年度の来場者は37.8%で過去最高の割合となり、07年度以降は3割以上を占めている(図表2-2)。

図表2-2 居住地(12年度)



- 観客の居住地の経年推移を見ると、07年度以降は北九州市と周辺以外のエリア（福岡市と周辺、北九州・福岡周辺以外の九州、山口県など）の割合が3割を超え、08年度以来は北九州市+周辺が減少する傾向にあった。11年度はその傾向に歯止めが掛かったが、12年度は再び「北九州市+周辺」が減少し、「北九州市+周辺以外のエリア」が増加した。

図表2-3 居住地の経年推移(05年度～12年度)



- チケットクラブには回答者の約4分の1(24.8%)が入会している。入会していない場合、今後入会意向があるのは14.7%である。

## (2) 北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況

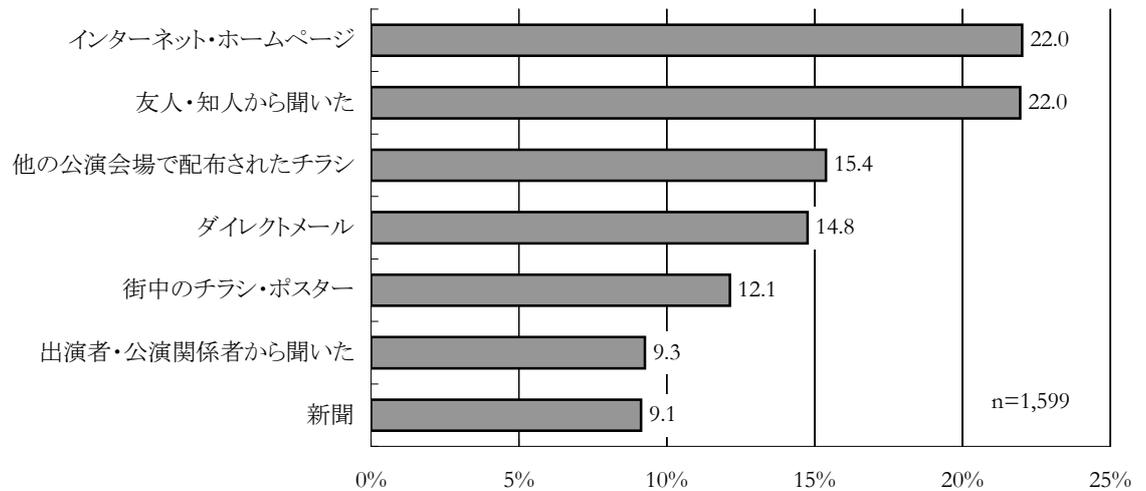
### ① 来場公演のジャンル(p.資-22～23)

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が約8割(79.4%)を占める。  
※アンケート配布公演35公演のうち31公演が「小劇場・現代演劇」であることによる。
- 年齢別に来場公演のジャンルをみると、いずれの年代でも「小劇場・現代演劇」の割合が高い。
- 北九州芸術劇場の来館経験が「11回以上」という回答者の場合、「小劇場・現代演劇」の割合が83.9%と、5人に4人の割合となっている。

### ② 公演情報の入手経路(p.資-24～25)

- 公演情報の入手経路は、全体では「インターネット・ホームページ」と「友人・知人から聞いた」が22.0%で最も高く、次いで、「他の公演会場で配布されたチラシ」(15.4%)、「ダイレクトメール」(14.8%)、となっている(図表2-4)。
- 10年度は初めて「インターネット・ホームページ」が最も高い割合となったが、11年度は2番目、12年度は「友人・知人から聞いた」と同率で再び最上位となった。

図表2-4 公演情報の入手経路(12年度) ※10%以上回答があった項目を、回答の多い順に掲載



- 公演情報の入手経路を、年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別に見る(図表2-5)。まず年齢別では、18歳未満、18～29歳、50歳代、60歳以上は「友人・知人から聞いた」、30歳代、40歳代は「インターネット・ホームページ」の割合が最も高い。「新聞」は年齢層が高いほど割合が高くなっている。
- 18歳未満では「街中のチラシ・ポスター」、18～29歳では、「インターネット・ホームページ」が第2位となっている。
- また、北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、北九州芸術劇場での鑑賞経験が6～10回のグループでは「インターネット・ホームページ」が最も割合が高い。一方、5回以下のグループでは、「友人・知人から聞いた」が最も高く、次いで「インターネット・ホームページ」となっている。
- 劇場での鑑賞経験によって情報の入手経路は特徴があるが、「インターネット・ホームページ」はいずれの鑑賞頻度でも17～29%の回答がある。鑑賞頻度に関わらず、便利な情報入手ツールとして使われていることがうかがえる。
- 鑑賞経験が多くなるほど、「他の公演会場で配布されたチラシ」と「ダイレクトメール」の割合は多くなる傾向にある。

図表2-5 年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別 公演情報の入手経路(12年度)

n=1,599(単位:%)

		友人・知人から聞いた	インターネット・ホームページ	他の公演会場で配布されたチラシ	ダイレクトメール	街中のチラシ・ポスター	新聞
全体		22.0	22.0	15.4	14.8	12.1	9.1
年齢層	18歳未満	33.3	11.1	6.7	2.2	17.8	8.9
	18～29歳	36.1	22.3	15.0	7.3	8.6	3.0
	30歳代	20.4	29.9	12.9	15.6	7.8	4.4
	40歳代	12.7	28.6	22.4	23.0	13.0	8.8
	50歳代	19.3	19.3	15.8	16.8	14.0	13.0
	60歳以上	22.3	7.9	11.9	10.9	15.8	19.3
鑑賞経験	今日が初めて	32.1	22.9	7.3	1.4	6.4	8.7
	1～2回	25.8	19.5	5.9	5.9	10.9	11.3
	3～5回	26.2	17.2	10.0	13.1	10.0	10.3
	6～10回	12.5	29.0	15.3	27.4	12.9	8.1
	11回以上	8.4	26.6	35.8	30.1	20.0	8.7

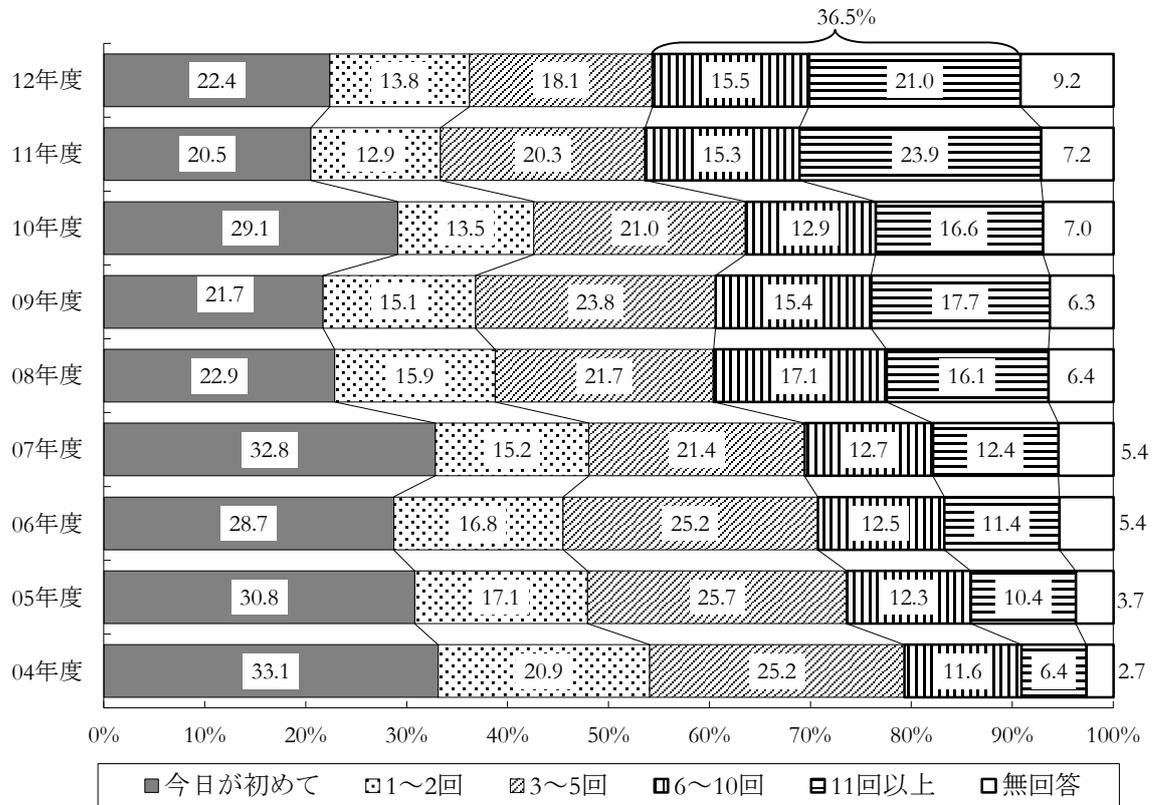
③公演に来た理由(p.資-26～27)

- 公演に来た理由は、「出演者・出演団体が好きだから」(50.1%)、「公演内容が面白そうだったから」(49.0%)への回答が多い。18歳未満、60歳以上は「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高く、その他の年代では「出演者・出演団体が好きだから」が最も高い。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験(p.資-46～47)

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は「今日が初めて」が22.4%と最も高いが、「1～2回」から「11回以上」まで大差はなく、来場者の鑑賞経験は幅広い。過去の推移を見ると、「11回以上」が最も高い割合となったのは11年度が初めてである。

図表2-6 北九州芸術劇場での鑑賞経験(04年度～12年度)



- 観客の北九州芸術劇場での鑑賞経験が多様であるのは04年度調査からの特徴であるが、年々劇場での鑑賞経験の多い観客(来場経験が6回以上)が増えており、12年度は約3分の1(36.5%)となっている(図表2-6)。6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは、ジャンル別では「パフォーマンス」、年齢別では「40歳代」以上である。

⑤公演前後の飲食やショッピング(p.資-28～29)

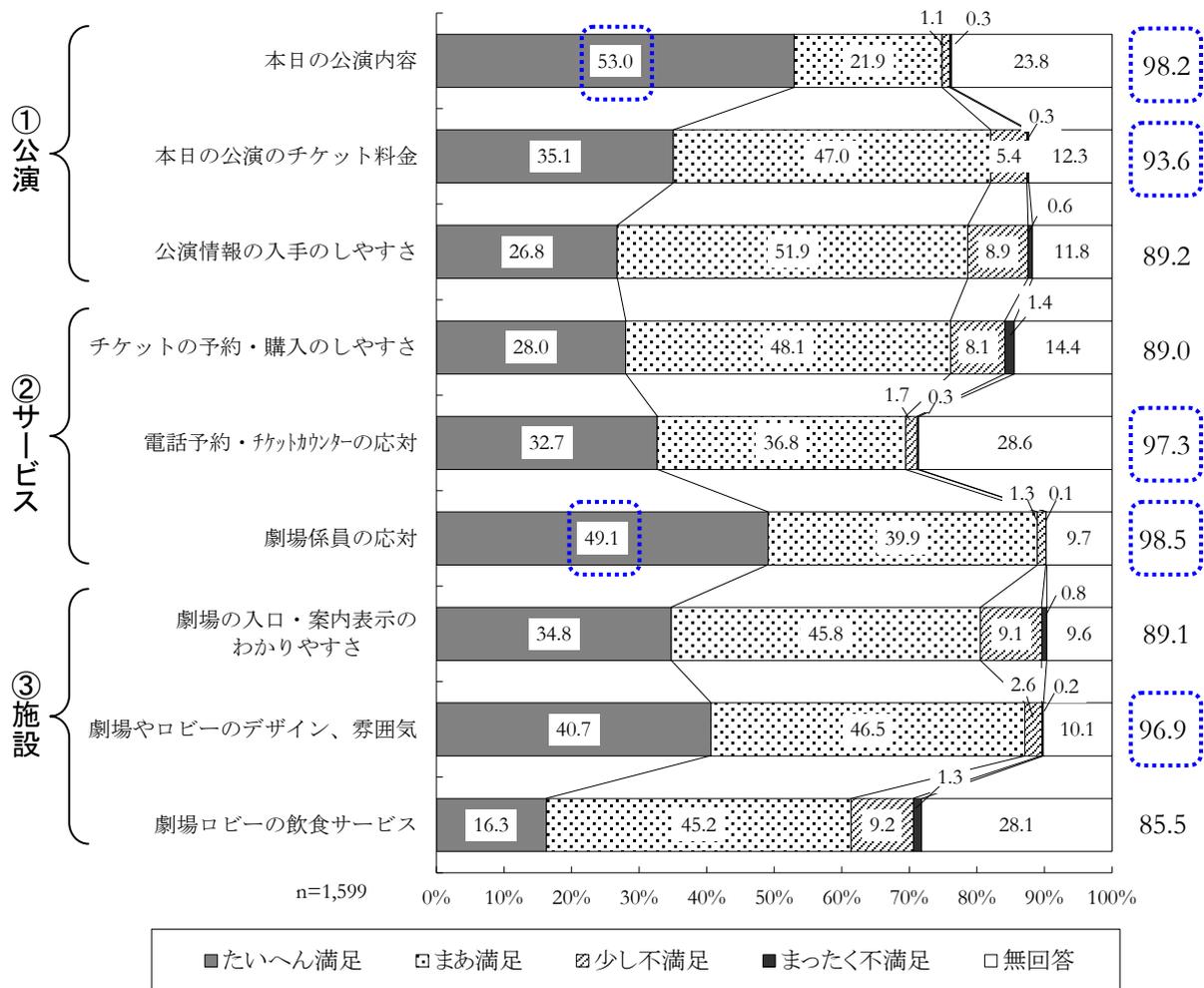
- 来場者の52.7%が公演前後に飲食あるいはショッピングをしており、平均金額は、飲食の場合が約1,509円(飲食をしている回答者の割合:全体の43.2%)、ショッピングの場合が約5,027円(ショッピングをしている回答者の割合:全体の20.8%)である。

(3) 公演や劇場に対する満足度(p.資-30～38)

- 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターの対応」、「劇場係員の対応」、「劇場やロビーのデザイン・雰囲気」の5項目である(図表2-7)。

図表2-7 公演や劇場に対する満足度(12年度)

[満足層の割合]



※満足層の割合:「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

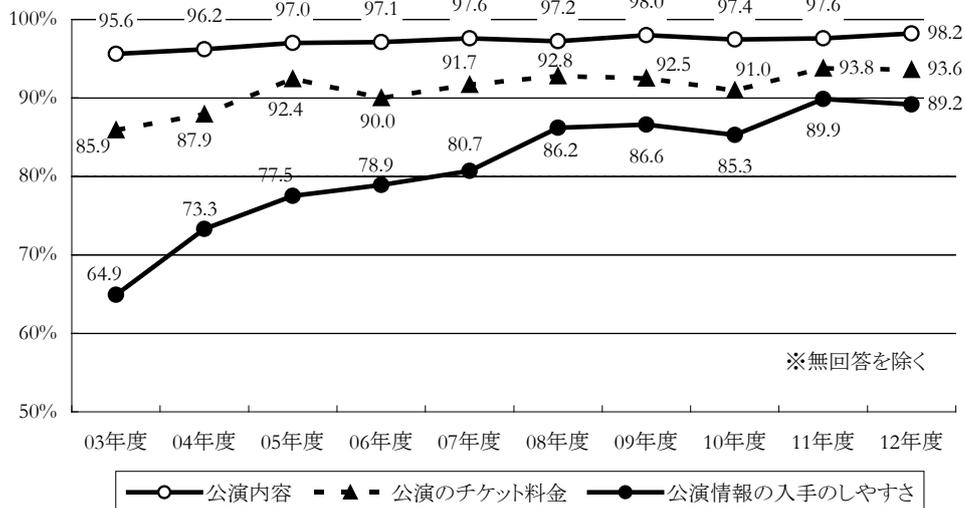
- 特に、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」の2項目については、「たいへん満足」の割合も、それぞれ53.0%、49.1%と高い評価となっている。
- 年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「たいへん満足」の割合が低くなる項目が多く、とくに60歳以上では、ほぼすべての項目で「たいへん満足」の割合が低い。
- 年齢層が高いほど満足層の割合が低くなる傾向は「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」のハードに関する2項目で顕著である。
- 無回答が多い「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、利用したことがない人が多いと考えられる。
- 次に、満足度に関する9項目を、①公演、②サービス、③施設の3つに分けて、満足層の割合の経年変化を見よう(図表2-8～2-10)。

#### ①公演について(図表2-8)

- 「公演内容」については、03年度から継続して満足層の割合が顕著に高く、観客からの評価は極めて高い。
- 「公演のチケット料金」も05年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも大きく関わっていると考えられる。

- 開館当初満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、満足度が向上し、12年度は満足層の割合が89.2%となっている。

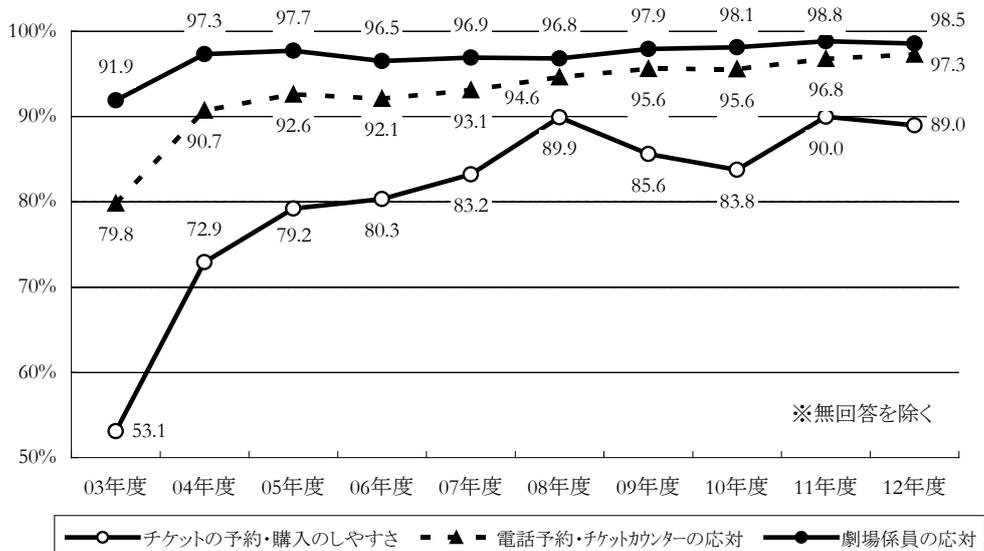
図表2-8 公演関連項目に関する満足層の割合(03年度～12年度)



②サービスについて(図表2-9)

- 「劇場係員の対応」は開館当初から、「電話予約・チケットカウンターの対応」は04年度から満足層の割合が90%を超えており、そのまま高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、満足度の伸びが大きい。ホームページからのオンラインチケット購入が可能となった11年度は90.0%と過去に比べて最も高い割合となっており、12年度の「たいへん満足」の割合(無回答を除く)も32.7%と高い割合となっている。
- 12年度は「電話予約・チケットカウンターの対応」が開館以来の推移で最も高い満足度となっている。

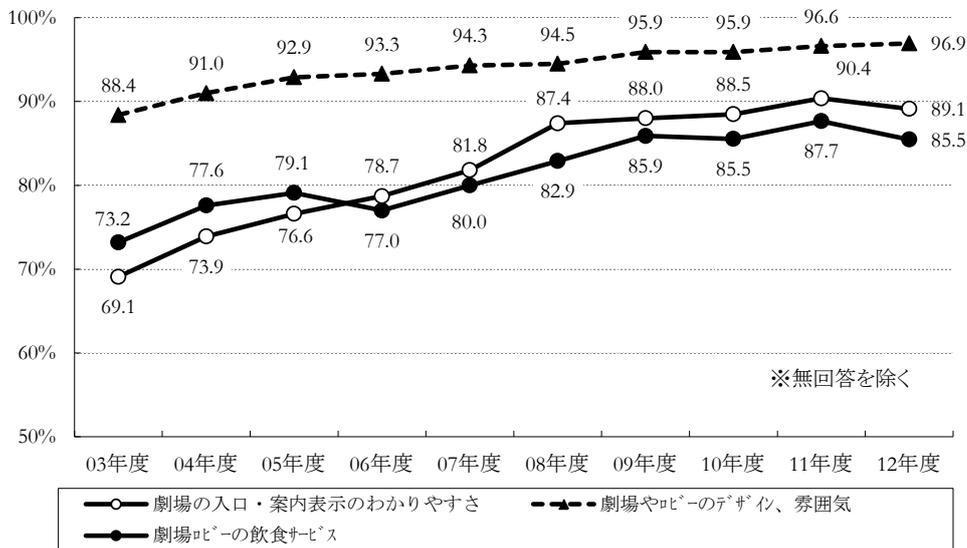
図表2-9 サービス関連項目に関する満足層の割合(03年度～12年度)



### ③施設について(図表2-10)

- 施設に関わる3項目のうち、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は、開館当初から満足層の割合が高く、そのまま高い水準を維持している。
- 一方、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、複合施設である故の動線の複雑さもあり、開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かったが、年々満足度が高まっており、12年度は89.1%となっている。これは、観客が慣れてきたこともあるが、案内表示の増設や既存サイン文字の大型化、駐車場エレベーター入口での音声案内など劇場側の工夫や努力の成果が大きいといえよう。
- 12年度は「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」が、開館以来の推移で最も高い満足度となっている。

図表2-10 施設関連項目に関する満足層の割合(03年度～12年度)

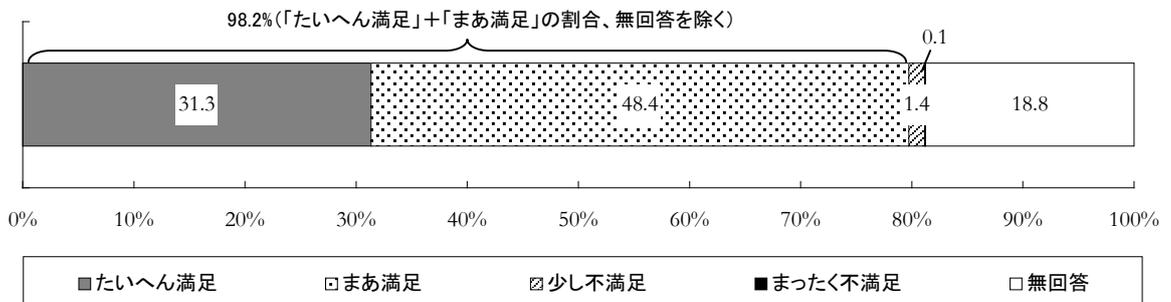


- ①公演、②サービス、③施設、いずれについても、すでに満足度が高い項目は高さを堅持している。

### ④総合的な満足度について

- 劇場に関する総合的な満足度は、満足層の割合が98.2%(無回答を除く)。全体では、「たいへん満足」の割合が31.3%、「まあ満足」の割合が48.4%となっている(図表2-11)。

図表2-11 総合的な満足度(12年度)



#### (4) 劇場の運営方針について(p.資-39~41)

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」については、いずれも90%以上が賛同している(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く)(図表2-12)。
- 「観る」については、「ぜひやってほしい」が77.5%と高い割合となっている(本アンケートが鑑賞者を対象としたアンケートであることには留意が必要である)。「創る」、「育つ」については、「観る」と比べると低いとはいえ、「ぜひやってほしい」が約49~52%と約半数を占める。これは03年度からの傾向である。
- 「創る」、「育つ」ともに、29歳以下の若い世代で「ぜひやってほしい」と積極的に賛同する割合が高い。

図表2-12 運営方針への賛同度(12年度)

n=1,599

運営方針	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する人の割合※	賛同しない人の割合
観る	77.5%	13.7%	0.8%	0.0%	7.9%	99.1%	0.9%
創る	51.8%	34.7%	3.3%	0.3%	9.9%	96.1%	3.9%
育つ	48.5%	36.5%	3.8%	0.8%	10.5%	95.0%	5.0%

※賛同する人の割合:「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

#### (5) 日頃の鑑賞活動について

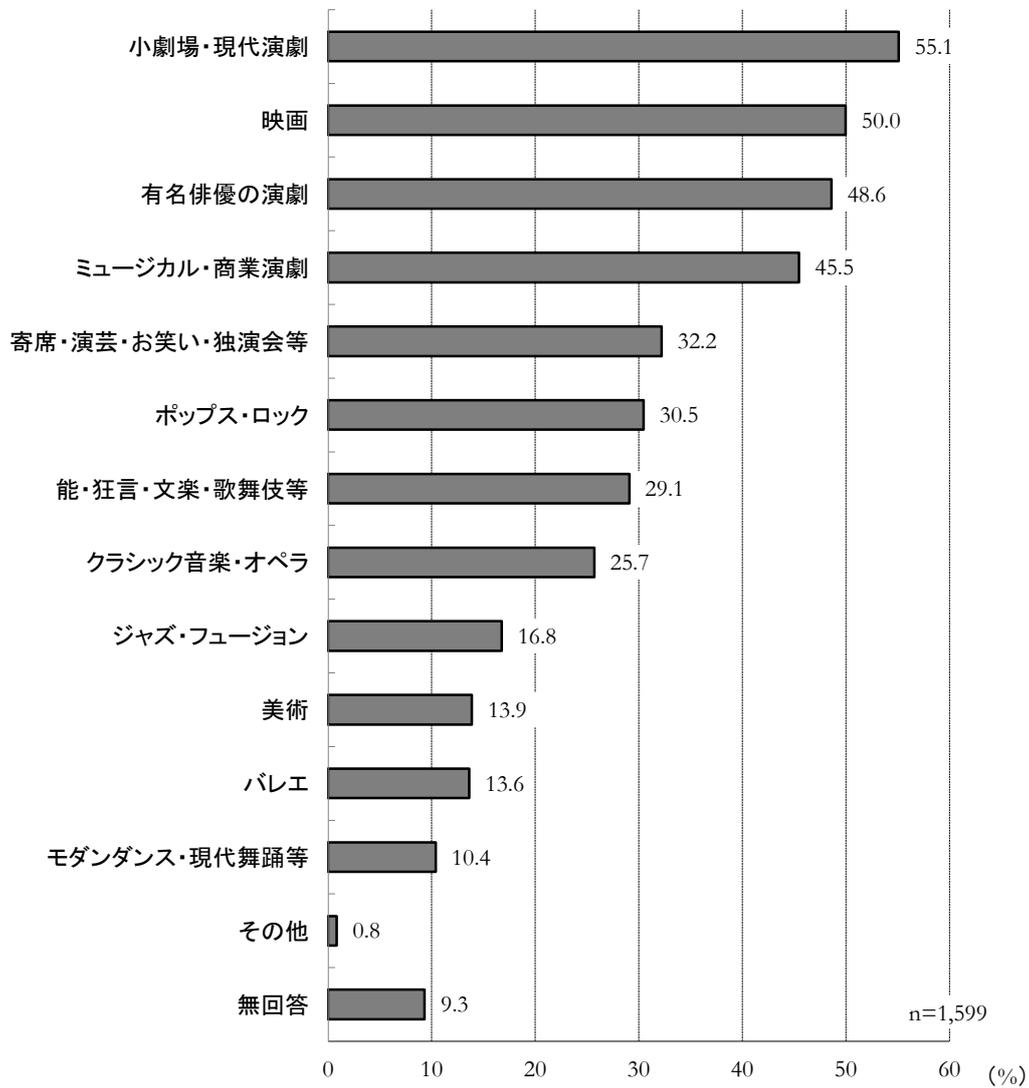
##### ①日頃コンサートや演劇に出かける頻度(p.資-44~45)

- 日頃コンサートや演劇に出かける頻度は、「年に3~4回程度」(19.2%)、「年に1~2回程度」(18.6%)、「年に5~9回」(16.1%)となっており、日頃の舞台芸術の鑑賞頻度は多様である。
- 北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は63.6%を占める。北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループでは、年に2回以下の頻度の割合が53.4%を占めている。

##### ②興味のあるジャンル(p.資-48~50)

- 普段興味を持っているジャンルについては、「小劇場・現代演劇」(55.1%)、「映画」(50.0%)、「有名俳優の演劇」(48.6%)、「ミュージカル・商業演劇」(45.5%)への回答割合が高く、興味のあるジャンルは多様である(図表2-13)。
- 興味のあるジャンルは、性別や年齢で特徴がある。性別で見ると、男性は「小劇場・現代演劇」、「映画」、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」、女性は「小劇場・現代演劇」、「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・商業演劇」という順で回答割合が高い。
- 年齢別で見ると、18歳未満は「映画」、18歳以上40歳代以下は「小劇場・現代演劇」への回答割合が他の年齢層に比べて高い。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、鑑賞経験が多いほど、「小劇場・現代演劇」、「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・商業演劇」への興味が深い。また、北九州芸術劇場での鑑賞経験が11回以上では、ほとんどすべての項目について回答割合が高く、舞台芸術以外でも、さまざまな文化・芸術に興味を持っていることがうかがえる。

図表2-13 普段興味のあるジャンル(12年度)



## 第3章 貸館利用者からみた評価

### 1. 利用者調査の実施要領

- 調査の対象:2012年度の貸館利用者(団体)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:247件
- 有効回答数(回収率):165件(66.8%)

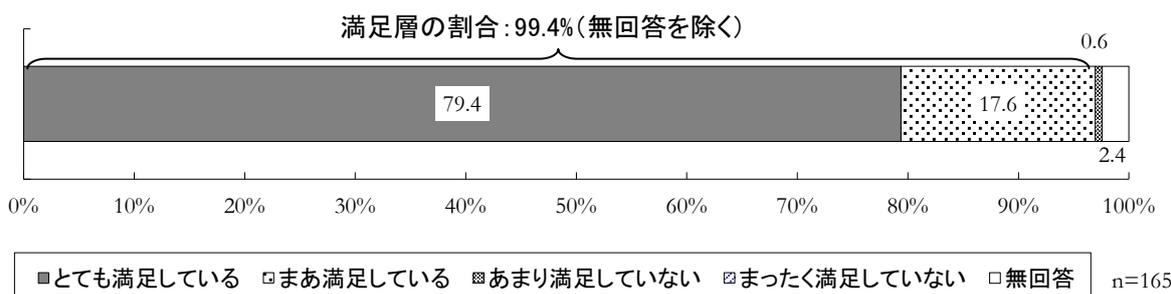
### 2. 利用者調査の結果概要

※本調査は、統計的な分析を目的とした調査ではなく、有効回答数も少ないため、アンケート結果の記述にあたっては、割合(%)とともに回答数を併記している。

#### (1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度(p.資-62)

- 劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足」が79.4%(131件)、「まあ満足」が17.6%(29件)で、満足層の割合(「とても満足」+「まあ満足」と回答した割合、無回答を除く)は99.4%と大変高い。

図表3-1 総合的な満足度【12年度】



#### (2) 施設に関する意見(p.資-63~67)

- 施設に関する7項目については、全ての項目で肯定的な評価をしている割合(「はい」+「どちらかといえば『はい』」、無回答を除く)が95%以上と大変高い。とくに「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台設備・機器が充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」は100%となっている。
- また、「はい」という積極的な評価の割合も高く、特に「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台設備・機器が充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」の4項目は、「はい」が90%以上である(図表3-2)。
- 「はい」という積極的な評価の割合について、08年度からの経年変化をみると、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」は5年間連続で9割以上が「はい」と回答している(p.資-65)。
- 12年度は、11年度と比べて「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「劇場の広さ(客席数)がちょうどよい」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」、「設備・機器などを安全に使用できた」で「はい」への回答が増加している。「搬入・搬出がやりやすい」については、他の項目に比べて満足層の割合、「はい」への回答ともに少ないものの、満足

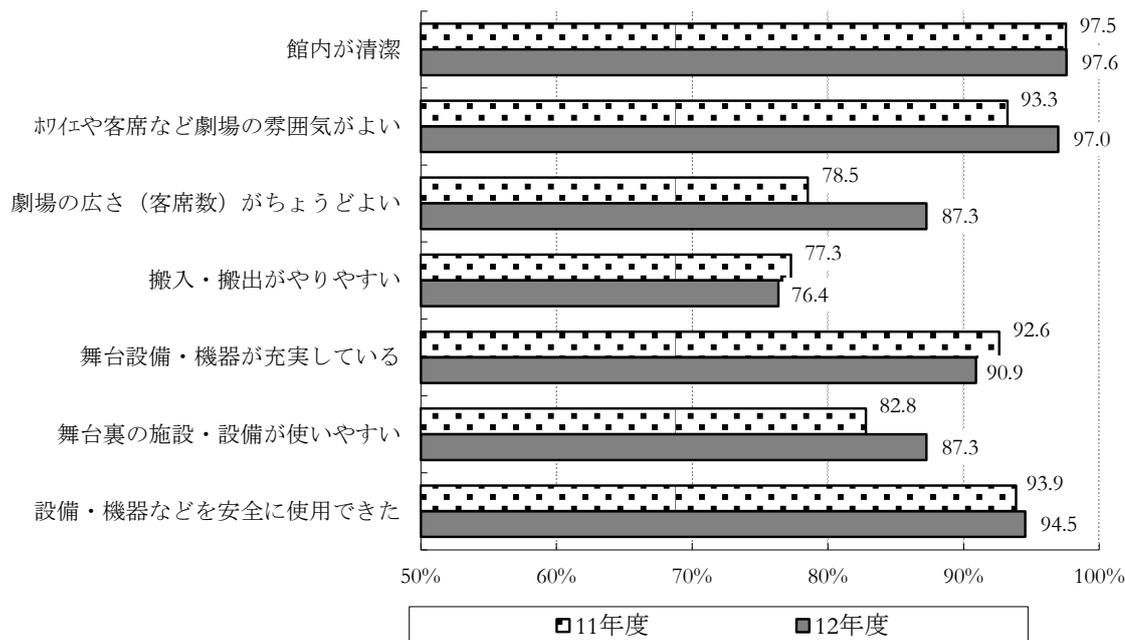
層の割合は95.7%となっている。利用者への搬入・搬出に関する説明や案内が周知されてきていること、利用者が慣れてきていることがうかがえる(図表3-2、3-3)。

※搬入・搬出については、複合施設である故の制限、駐車場からの動線の難しさ等が、意見記述欄にも課題として記入されることが多いが、打合せ時に説明・案内を周知する、施設側(リバーウォーク北九州)と協議・調整する等の対策を講じている。

図表3-2 施設(ハード)に関する意見【12年度】

n=165(単位:%)	「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ど ちらかとい えば「はい」 (除無回答)
館内が清潔	97.6	2.4	0.0	0.0	0.0	100.0
ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい	97.0	3.0	0.0	0.0	0.0	100.0
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい	87.3	10.3	1.2	0.6	0.6	98.2
搬入・搬出がやりやすい	76.4	17.6	3.6	0.6	1.8	95.7
舞台設備・機器が充実している	90.9	7.9	0.0	0.0	1.2	100.0
舞台裏の施設・設備が使いやすい	87.3	9.1	3.0	0.0	0.6	97.0
設備・機器などを安全に使用できた	94.5	3.6	0.0	0.0	1.8	100.0

図表3-3 施設(ハード)に関する意見「はい」の回答割合比較【11年度・12年度】



(3) 運営や応対に関する意見(p.資-68~73)

- 運営、応対に関する12項目についても、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で、肯定的な評価をしている割合が95%以上と高くなっている。また、「はい」という積極的に評価する割合も高い(図表3-4)。
- 「はい」という積極的な評価の割合については、「事務スタッフの応対がよい」が08年度以降5年間連続で、09年度から項目を加えた「当日の対応が適切」、「フロントスタッフの応対がよい」は4年間連続で9割以上が「はい」と回答している(p.資-71)。
- 12年度は、11年度と比べて、全ての項目で「はい」への回答割合が高くなっている(図表3-5)。特に「利用や予約情報が入手しやすい」、「利用問い合わせや予約が円滑」、「現在

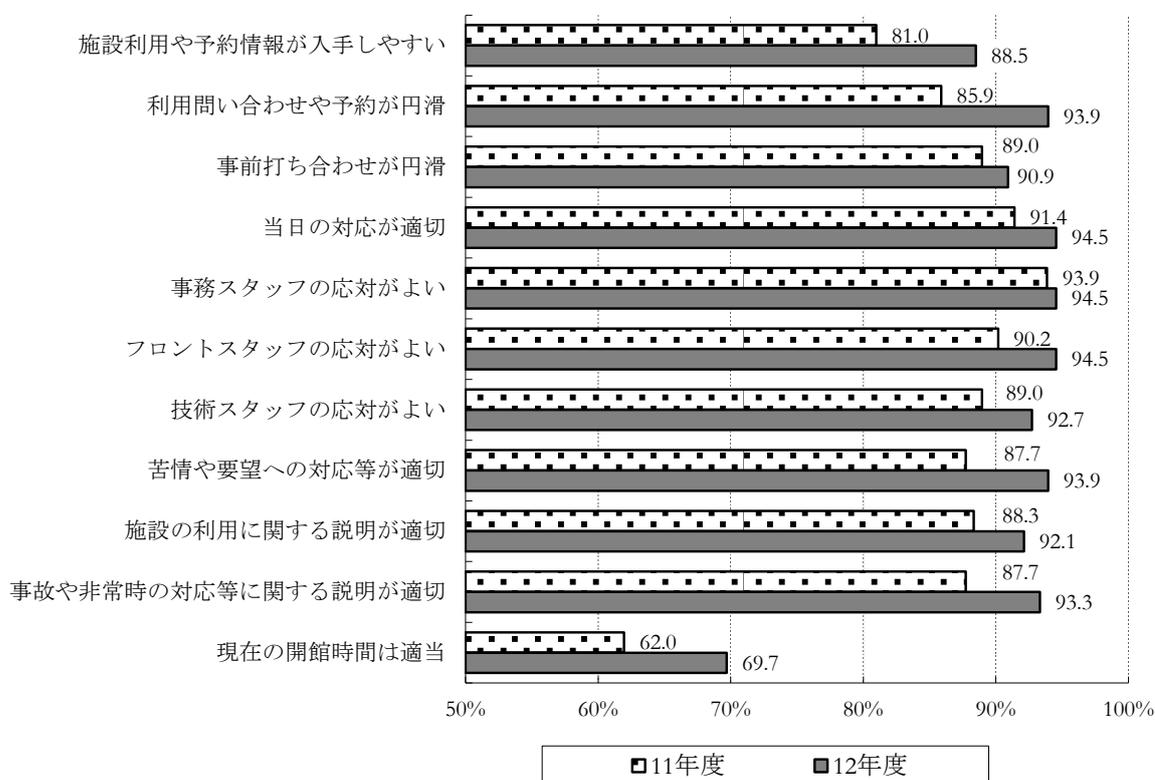
の開館時間は適当」では、11年度に比べて「はい」への回答割合が高くなっている。

- 「現在の開館時間は適当である」については、他の項目に比べると「はい」の割合が低い。これは管理規則で10時から22時と定められており、より長い開館時間を求める意見や、仕込み等のために柔軟な利用時間の設定を求める意見があがっている。ただし、過去の推移を見ると「はい」という評価が増加し続けており、理解の浸透がうかがえる。

図表3-4 運営や対応(ソフト)に関する意見【12年度】

n=165(単位:%)	「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いい え」	「いい え」	無回答	「はい」+ どちらか といえば「は い」(除無 回答)
施設利用や予約情報が入手しやすい	88.5	9.1	0.6	0.0	1.8	99.4
利用問い合わせや予約が円滑	93.9	2.4	0.6	0.0	3.0	99.4
事前打ち合わせが円滑	90.9	5.5	0.6	0.6	2.4	98.8
当日の対応が適切	94.5	3.6	0.0	0.6	1.2	99.4
事務スタッフの対応がよい	94.5	4.2	0.0	0.0	1.2	100.0
フロントスタッフの対応がよい	94.5	3.6	0.0	0.0	1.8	100.0
技術スタッフの対応がよい	92.7	4.8	0.0	0.6	1.8	99.4
苦情や要望への対応等が適切	93.9	3.0	0.6	0.0	2.4	99.4
施設の利用に関する説明が適切	92.1	4.2	0.0	0.0	3.6	100.0
事故や非常時の対応等に関する説明が適切	93.3	3.6	0.6	0.0	2.4	99.4
現在の開館時間は適当	69.7	17.6	5.5	3.0	4.2	91.1

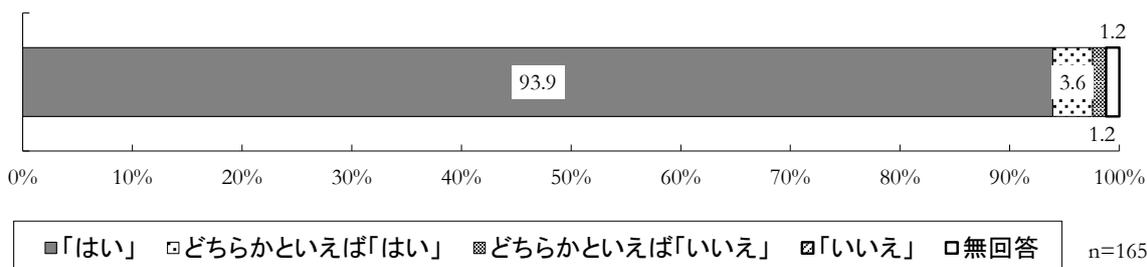
図表3-5 運営や対応(ソフト)に関する意見「はい」の回答割合比較【11年度・12年度】



#### (4) 今後の利用の意向 (p.資-73)

- 「機会があればまた利用したい」については、「はい」が93.9% (155件) と高い割合を占めており、「どちらかといえば『いいえ』」は2件、「いいえ」は0件であった。利用者の今後の利用意向は大変高い (図表3-6)。
- 今後の利用意向の高さは、貸館事業全体への満足度の高さを示しているものであると考えられる。

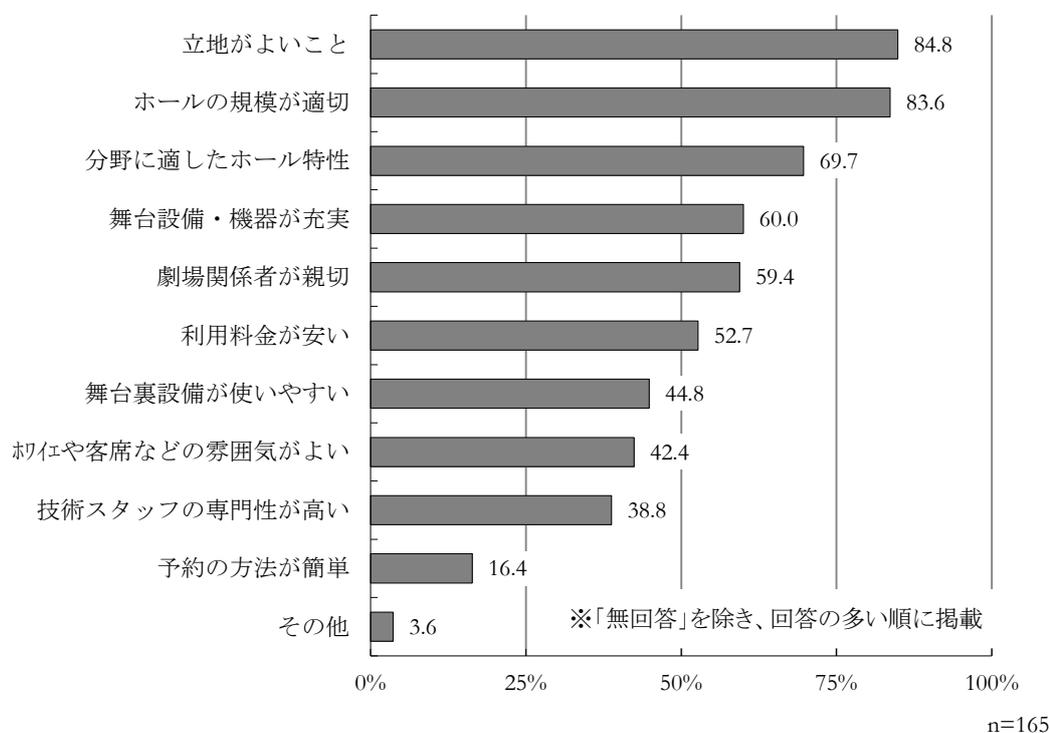
図表3-6 今後の利用の意向 【12年度】



#### (5) 利用の際、重視すること (p.資-74~76)

- 利用の際重視することとしては、「立地がよいこと」(84.8%・140件)と「ホールの規模が適切」(83.6%・138件)への回答が多い。
- そのほか、「分野に適したホール特性」、「舞台設備・機器が充実」、「劇場関係者が親切」、「利用料金が安い」も50%以上の回答となっている (図表3-7)。

図表3-7 利用の際、重視すること 【12年度】



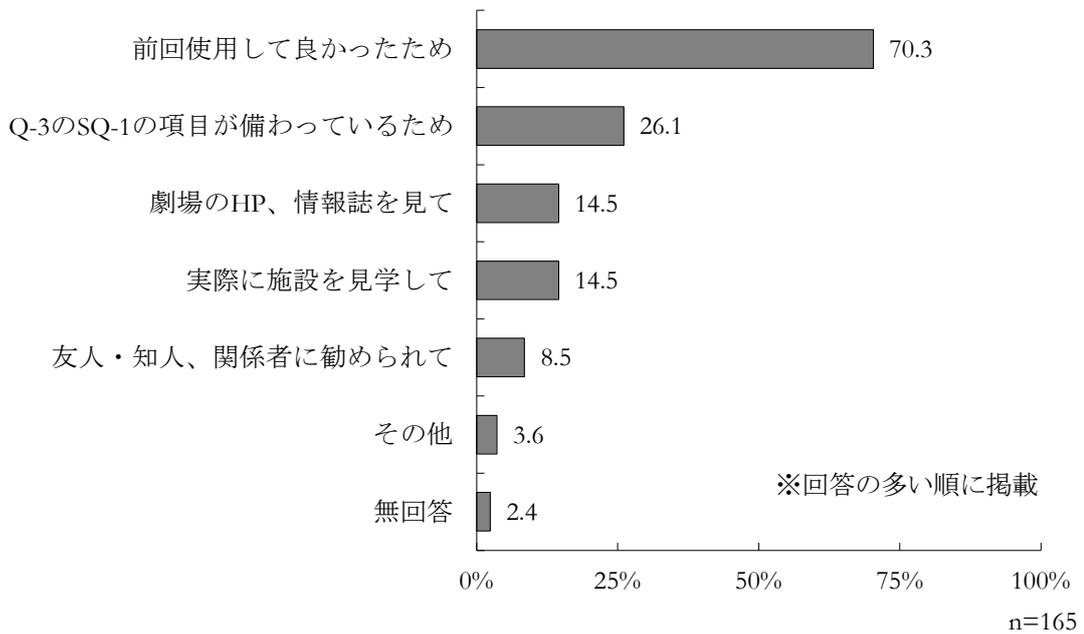
- 最も重視することは、「立地がよいこと」(29.7%・49件)への回答が最も多く、次いで、「分野

に適したホール特性」(29.1%・48件)、「ホールの規模が適切」(25.5%・42件)となっている。

#### (6) 利用のきっかけ(p.資-77)

- 利用のきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、70.3%(116件)を占めている。利用者の劇場への満足度は高く、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる(図表3-8)。
- 次いで、「Q-3のSQ-1(利用の際、重視する)の項目が備わっているため」(26.1%・43件)となっており、「立地がよいこと」、「分野に適したホール特性」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっていると考えられる。

図表3-8 利用のきっかけ



## 第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

### 1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

12年度も例年どおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

#### (1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出(最終需要)は、
  - ①劇場の管理運営に関する支出
  - ②劇場の主催事業に関する支出
  - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
  - ④貸館事業の主催者の事業支出
  - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる(図表4-1参照)。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアからの集客や、同じような消費活動を行っているとは考えにくい。⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

#### (2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。なお、本文中および図表に表記されている個別の項目の数値は100万円未満を四捨五入しているため、小計、合計、誘発係数には四捨五入による誤差が生じている箇所がある。
- ①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億5,700万円、2億1,400万円、1億6,900万円、合計で10億4,000万円となっている。そのうち、70.7%にあたる約7億3,500万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が9億2,800万円、②が3億4,500万円、③が2億

6,600万円、合計で15億3,900万円である。そのうち、65.6%にあたる10億900万円が北九州市内での経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.48、北九州市内で1.37である。

- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみ)は、約6億9,100万円～7億8,300万円、生産誘発係数は1.39～1.40である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約22億3,000万円～23億2,200万円で生産誘発係数は1.45、北九州市内に限ってみると、約17億円～17億9,200万円で生産誘発係数は1.38となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では145～154人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で128～136人で、対事業所サービス、対個人サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(12年度)

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億5,700万円 (5億7,500万円)	9億2,800万円 (7億8,800万円)	1.41 (1.37)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	2億1,400万円 (6,800万円)	3億4,500万円 (9,500万円)	1.62 (1.40)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億6,900万円 (9,100万円)	2億6,600万円 (1億2,600万円)	1.58 (1.38)
	小計	10億4,000万円 (7億3,500万円)	15億3,900万円 (10億900万円)	1.48 (1.37)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	1億3,400万円 ～2億円	1億8,400万円 ～2億7,600万円	1.38
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費	3億6,100万円	5億700万円	1.40
	小計(参考値)	4億9,500万円 ～5億6,200万円	6億9,100万円 ～7億8,300万円	1.39 ～1.40
	合計(参考値)	15億3,400万円 ～16億100万円 (12億2,900万円 ～12億9,600万円)	22億3,000万円 ～23億2,200万円 (17億円 ～17億9,200万円)	1.45 (1.38)
		雇用効果 (北九州市内)	145～154人(就業者ベース) 128～136人(雇用者ベース)	

※下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館事業については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。

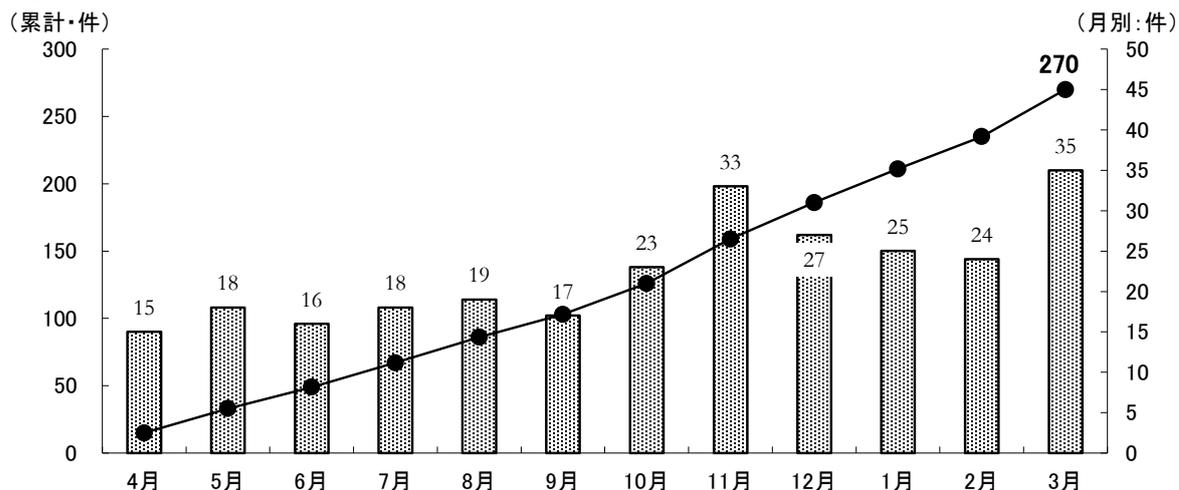
## 2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、03年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、12年度も継続してパブリシティ効果の算出を行なった。

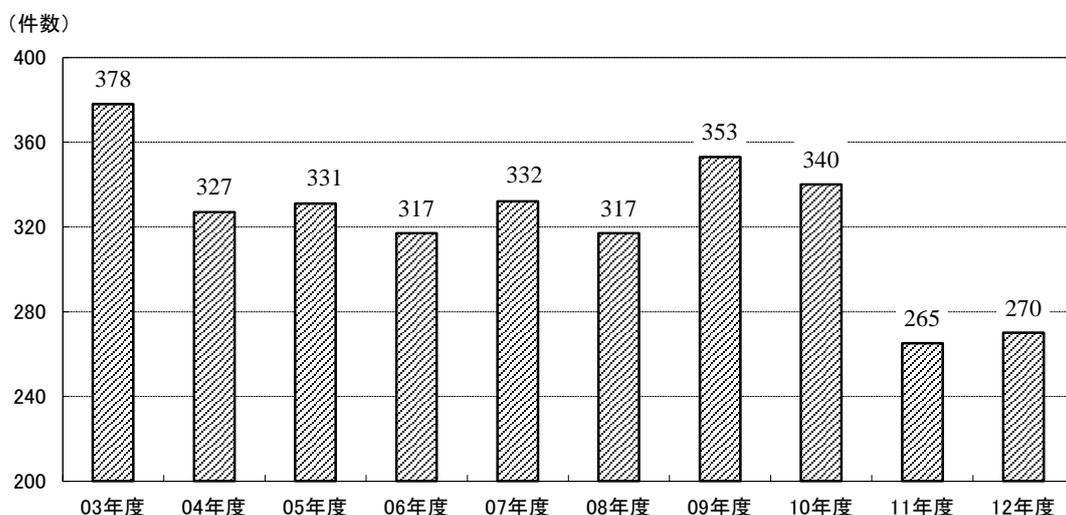
### (1) 「北九州芸術劇場」をキーワードとした12年度の掲載記事の件数と内容

- 12年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は270件(図表4-2)である。
- 03年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。11年度は過去最少の掲載件数となったが、その要因は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられる。12年度は11年度に比べると掲載記事件数は増えたものの、10年度以前の掲載件数には及んでいない(図表4-3)。

図表4-2 月ごとの掲載件数と累計(12年度)



図表4-3 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移(03年度～12年度)



資料) 図表4-2、4-3ともに「日経テレコン」記事検索の結果より作成

- 新聞別に見ると、12年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(111件)、次いで、朝日新聞(64件)、読売新聞(30件)、毎日新聞(27件)、日経新聞(17件)となっている。その他、九州各県をはじめとする地方新聞は21件となっている(図表4.4)。

図表4-4 新聞別件数一覧(03年度～12年度)

	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度
西日本新聞	151	147	149	149	120	119	131	146	101	111
朝日新聞	78	52	48	60	74	62	80	73	59	64
読売新聞	40	61	46	31	28	36	45	31	28	30
毎日新聞	58	31	34	20	32	33	43	30	33	27
日本経済新聞	34	32	37	37	50	41	34	35	18	17
その他	17	4	17	20	28	26	20	25	26	21
計	378	327	331	317	332	317	353	340	265	270

資料)「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
  - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
  - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催事業の紹介記事
  - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
  - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
  - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、122件であった(11年度:106件)。
- その内容を、「主催/提携・協力事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、37件、19件、49件、17件であった(図表4.5)。

## (2) 広告掲載料をベースとした金額換算と評価

- これら122件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億846万円という結果となっている(図表4.5)。
- 03年度は開館、04年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高く、掲載記事の件数・文字量が多かったため、換算金額も高くなった。
- 05年度は全国展開型の創造事業の公演数が多く、06年度は朝日舞台芸術賞グランプリを獲得し、全国紙の掲載件数が多かった。広告の単価は全国紙で高いため、05年度と06年度は全体の掲載件数は突出して多くはないが、換算金額が高いという結果になっている。
- 07年度以降は、コンスタントに劇場事業や関係する劇団の記事などが掲載されるようになっている。
- 12年度の掲載内容をみると、西日本新聞、朝日新聞(西部)、読売新聞(西部)での演劇や舞台に関する批評・紹介欄で、公演事業に関する記事が掲載されている。九州他県の地方紙でも紹介されており、北九州市域外での劇場事業の定着が新聞記事からうかがえる。
- 12年度では、「山海塾」、「LAND→SCAPE/海を眺望→街を展望」、「サンプル」、「ハイバイ」といった公演事業の紹介記事が多い。また、学芸事業や貸館事業に関する紹介記事の割合が増えたことも、12年度の大きな特徴となっている。(図表4.6)。

- 学芸事業では、「日韓子ども演劇キャンプ」や「市民共同リーディング」の取材記事、貸館事業では、3月には1年前に発生した東日本大震災に関連する公演が数多く紹介されている。
- 12年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約8,600万円であり、劇場事業のパブリシティ効果(約1億846万円)は補助金の規模を上回る成果を生み出していると言える。

図表4-5 新聞掲載記事の内容と金額換算(03年度～12年度)

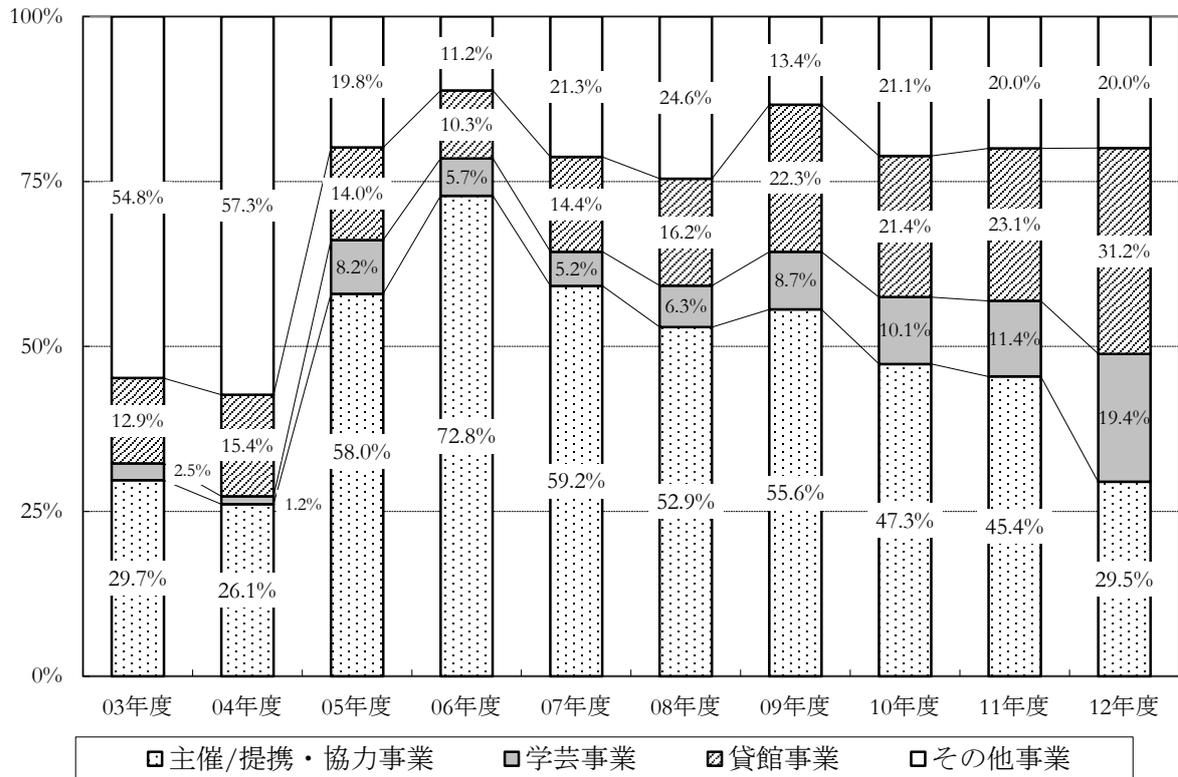
	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)
主催/提携・協力事業	70	62,140	54	46,211	75	110,044	88	160,243
学芸事業	8	5,331	5	2,141	25	15,505	17	12,451
貸館事業	46	27,072	43	27,235	34	26,622	35	22,741
その他事業	56	114,683	61	101,577	25	37,678	23	24,680
計	180	209,226	163	177,164	159	189,849	163	220,115

	2007年度		2008年度		2009年度		2010年度	
	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)
主催/提携・協力事業	85	66,027	55	66,588	86	65,542	82	64,078
学芸事業	12	5,777	12	7,926	11	10,316	28	13,718
貸館事業	31	16,056	50	20,392	57	26,293	55	28,986
その他事業	26	23,737	32	30,961	23	15,755	22	28,598
計	154	111,597	149	125,867	177	117,905	187	135,380

	2011年度		2012年度	
	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)
主催/提携・協力事業	41	42,162	37	31,969
学芸事業	8	10,621	19	21,021
貸館事業	42	21,443	49	33,825
その他事業	15	18,563	17	21,646
計	106	92,789	122	108,461

※ 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

図表4-6 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース] (03年度～12年度)



## 第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果

最後に、2003年度から12年度までの10ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価結果をとりまとめた。07年度までは、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームで整理していたが、08年度に、(財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、今年度もそれに沿ってとりまとめを行った。

### 1. 評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定し、それぞれに評価大項目(戦略目標)を設定、さらに評価中項目(戦略)とそれを評価するための評価指標・基準を設定している。

図表5-1は、A、B、C、3つの戦略・評価軸の評価大項目を整理したものである。

図表5-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム(評価軸と評価大項目)

戦略・評価軸		No	評価大項目
A	劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
		A-1	鑑賞系事業
		A-2	創造系事業
		A-3	普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など
		A-4	普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)
		A-5	市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)
		A-6	地域への貢献①(地域経済への波及効果など)
		A-7	地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップなど)
		A-8	広域施設としての役割発揮
B	管理運営	B-1	場の提供・支援(貸館)
		B-2	施設のホスピタリティ・サービス
		B-3	施設の維持管理
C	経営	C-1	経営体制
		C-2	リサーチ&マーケティング
		C-3	経営努力

- 12年度は、上記図表5-1の基本フレームに基づいて、03年度から12年度の10ヶ年で把握したデータや情報をあらためて整理した。

### 2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表5-3に一覧表として整理し、そのポイントを以下に記述した。 ※割合(%)の記載は、小数点以下を四捨五入して掲載した(図表5-3も同様)。

## A. 劇場の設置目的

### A-0 ミッション 「創る」「育つ」「観る」

#### ①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等

- 劇場では開館初年度から、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針を設定している。
- 12年度も、3つの運営方針に基づき、北九州からの発信と地元演劇人の発掘、育成を意識した創造事業、舞台関係者の育成や子どもや学校、一般市民などを対象とした積極的な学芸事業、小劇場・現代演劇に多様なラインナップを揃えた公演事業を展開し、「創る」「育つ」「観る」それぞれの事業が一体となった事業を実施している。
- 10年度に実施した座談会では「地域文化振興における北九州芸術劇場の役割」というテーマを設定したところ、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。

#### ②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)

- 観客の運営方針への支持率<sup>※</sup>は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館の03年度から継続して90%を超えている。

※「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

#### ③劇場の来場者(利用者)数

- 北九州芸術劇場への年間来場者(利用者)数は、05年度以降、毎年27~28万人で推移しているが、12年度は約28万人となった。また、この10年間で利用者数は延べ281万人を超えた。12年4月1日現在の北九州市の人口(推計値)は約97万であり、すでに人口の3倍近くの利用者が来場したことになる。
- 開館以来、北九州劇場を地域になくしてはならない施設として定着させていくために積み重ねてきた事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきており、今後も引き続き、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の展開と継続が必要であろう。

### A-1 鑑賞系事業 [観る]

[観る]: 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

#### ①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施

- 12年度も、「観る」(鑑賞系事業)では、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。

#### ②年間延べ観客数

- 12年度の公演事業については、18事業で43回の公演が行われた。入場者数は18,517人、入場率は93%である。
- 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、38事業、公演回数は102回。入場者数は29,458人、入場率は90%となっている。

#### ③公演に対する観客の満足度

- 観客調査の結果から公演(主催/提携・協力事業)に対する観客の満足度をみると、開館年度(03年度)から継続して「(本日の)公演内容」への満足度の高さが顕著である。12年度も満足層の割合<sup>※</sup>は98%で、そのうち「たいへん満足」の割合が53%と、観客からの高い評

価を得ている。なお、この公演に対する観客の満足度には、次項の「創造系事業」も含まれる。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- あわせて、「(本日の)公演のチケット料金」も満足層の割合は93%以上であり、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映されていると考えられる。

#### ④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、魅力的な作品を招聘しているという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。
- 09年度のグループインタビューで、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合に連携や機能分担が重要になるだろうという点は共通認識であった。北九州芸術劇場としては、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。

### A-2 創造系事業 [創る]

[創る]: 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。

#### ①ミッションに基づいた創造系事業の実施

- 12年度も、全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な創造系事業が実施された。
- プロデュース作品「LAND→SCAPE/海を眺望→街を展望」は東京(4回)で公演を行った。
- 入場率では「リーディングセッションvol.21」で101%、「わたしの青い鳥2012」で84%となっている。創造系事業の全5事業のうち4事業で入場率が80%を超えており、市民からの支持の高さがうかがえる。
- 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、創造系事業を効果的に実施し、地域に根付かせていこうとする努力の成果がうかがえる。また、プロデュース作品の東京などでの公演によって、北九州芸術劇場の全国発信に貢献している。

#### ②年間延べ観客数

- 12年度、「創る」では、5事業で22回の公演が行われ、入場者は3,847人、入場率は平均で82%と高い入場率となっている。

#### ③創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果

- 10年度の座談会では、例えば劇場と美術館との共同制作や、伝統工芸を取り入れた衣装や舞台美術のデザインなど、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。
- 09年度の首都圏の劇場関係者によるグループインタビューでは、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、九州圏域の劇場関係者や演劇人も共通して北九州芸術劇場の次なる目標として期待しているのは、アジアとの国際交流や創造・発信への取り組みであった。

### A-3 普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など

[育つ]:アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。

#### ①ミッションに基づいた普及系事業の実施

- 「育つ」については、普及系事業を継続的に実施している。12年度は、
  - 「アーティスト往来プログラム」として、演劇・ダンス分野から多彩な講師を招いた「インリーチ」、「アウトリーチ」
  - 創造参加として、合唱物語「わたしの青い鳥2012」、「北九州パントマイム教室」といった、市民が舞台芸術に触れる機会や創造参加への機会の提供に取り組んでいる。
- 11年度からの「アーティスト往来プログラム」は、同じアーティストが「アウトリーチ」と「インリーチ」でアプローチの対象や内容を変化させることで、劇場と学校や地域との間に、より多様な関係を生み出そうとする意図がうかがえる。

#### ②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数

- 12年度に実施した「シアターデモ2013」は、創造工房を中心に32回の講座と4回のモデル公演を開催した。受講人数は68人、受講延人数・モデル公演入場者数は693人であった。

### A-4 普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)

#### ①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容

- 12年度に実施した「日韓子ども演劇キャンプ」では、北九州芸術劇場と韓国・富平アートセンターでワークショップを行い、作品発表会を韓国で行った。

#### ②学校等と連携したプログラム数と参加人数

- 12年度に実施した「アーティスト往来プログラム」は、市内小学校教師を対象とした「インリーチ」と市内の小学校などの「アウトリーチ」を実施した。小学校7校、高校といった教育機関以外に、企業や様々な公共空間でも活動を展開した。

### A-5 市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)

#### ① ミッションに基づいた市民活動支援の実施

- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業を実施しており、12年度は、「ツドエmeets北九州vol.8『ワタシんち、通過。のち、ダイジェスト』」、合唱物語「わたしの青い鳥2012」、「北九州パントマイム教室」、「二兎社+公立劇場共同制作『こんばんは、父さん』《トークイベント》」などの7事業で32回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は1,843人。
- 合唱物語「わたしの青い鳥」、「北九州パントマイム教室」(08年度以前は「北九州パントマイムフェスティバル」)は開館の03年度あるいは04年度から継続実施されている事業で、市民に定着していることがうかがえる。
- 10年度の座談会では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」との評価があった。

#### ② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)

- 貸館利用者を対象とするアンケート調査で専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「技術スタッフの対応がよかった(技術的な助言や援助は適切だった)」は99%と、満足層の

割合は大変高い。関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台設備・機器は充実している」をみても、満足層の割合\*は100%となっている。これらの項目では、「はい」という積極的な評価も高い。

- 劇場の専門的な技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けており、自由回答の書き込みも、それを裏付ける内容が多い(なお、09年度からテクニカルアドバイザーによるアドバイスの提供など、公演・講演に対する支援体制が強化された。)

#### A-6 地域への貢献①(地域経済などへの波及効果)

##### ① 地域外からの来場者割合

- 観客アンケート結果をみると、07年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け(06年度:21%、07年度:31%、08年度:31%、09年度:33%、10年度:37%、11年度:34%)、12年度は38%と過去最高の割合となっている。

##### ② 公演鑑賞に伴う消費行動

- 観客アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、12年度の飲食またはショッピングをした人の割合は53%で、毎年ほぼ60%で推移している。
- 飲食をしている割合は43%で平均金額は約1,500円、ショッピングをしている割合は21%で平均金額は約5,000円となっている。

##### ③ 経済波及効果

- 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた12年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、劇場の管理運営が約6.6億円、主催事業が約2.1億円、主催事業の観客の消費支出が約1.7億円となっている。
- それらの経済波及効果は、約15.4億円である。
- また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約4.9～5.6億円、経済波及効果が約6.9～7.8億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業(観客消費支出含む)で1.48、貸館を含めると1.45となっている。試算を始めた04年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は1.45～1.48となっており、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 雇用効果については、就業者ベースで145～154人、雇用者ベースで128～136人という結果となっている。

#### A-7 地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップ)

##### ① シビックプライドの醸成

- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。

##### ② パブリシティ効果

- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する12年度の記事掲載件数は122件。新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、12年度は約1億800万円

\* 「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

となる。

- 12年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約8,600万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模を上回る成果を生み出していると言える。

## A-8 広域施設としての役割発揮

### ①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、「困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする」といった意見が聞かれた。
- また、「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。

### ②当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興

- 北九州芸術劇場の事業や運営は福岡市にも波及している。「福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要」との九州圏域の劇場・演劇関係者の意見が聞かれた。
- 今後の北九州芸術劇場あるいは(公財)北九州市芸術文化振興財団の長期的なビジョンには、地域版アーツカウンシルとしての役割や機能を視野に入れることが期待されるが、09年度のグループインタビュー調査では、九州圏域全体の舞台芸術環境を視野に入れたアーツカウンシルが求められていることが分かった。
- 12年度は韓国・仁川(インチョン)広域市富平(プピョン)区の富平アートセンターとの協働による両国の小学生を対象としたアウトリーチ事業として、日韓子ども演劇キャンプ「チャレンジ！ えんげき2012」のワークショップと交流プログラムを実施した。

## B. 管理運営

### B-1 場の提供・支援(貸館)

#### ①ミッションに基づいた貸館事業の実施

- 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づけられている。

#### ②貸館事業における入場者数

- 12年度の貸館の公演・講演事業数は247事業。計319回の公演・講演が実施され、入場者数は169,359人となっている。

#### ③利用者の満足度

- 貸館利用者を対象とした利用者調査の結果では、劇場利用に関する総合的な満足度<sup>\*</sup>は99%で、利用者のほぼ全員が満足している。また、今後の利用意向<sup>\*</sup>も99%と高いことは、満足度の高さの現れといえよう。
- 具体的な項目をみても、スタッフの応対や説明などソフト面に対する満足度<sup>\*</sup>は、「現在の開館時間は適当である」を除いて約98%以上と非常に高い。また、「はい」という積極的な評価の割合も高い。
- 05年度(利用者調査開始年度)以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足

<sup>\*</sup> 満足度は「たいへん満足」+「まあ満足」の割合、利用意向は「はい」+「どちらかと言えば『はい』」の割合。無回答は除く。

度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。

## B-2 施設のホスピタリティ・サービス

### ①公演や催し物情報に関する満足度

- 開館年度(03年度)に満足度が65%であった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、12年度は89%(06年度:79%、07年度:81%、08年度:86%、09年度:87%、10年度:85%、11年度:90%)となっている。開館から10年が経過し、観客が劇場に慣れてきたことであろうが、劇場側の情報発信への工夫や努力も大きいと思われる。

### ②ホスピタリティに関する満足度

- 03年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、12年度は89%(06年度:79%、07年度:82%、08年度:87%、09年度:88%、10年度:89%、11年度:90%)と上昇している。
- 満足度の上昇は、①公演や催し物情報に関する満足度と同様に、開館から10年が経過し、観客が劇場に慣れてきたことであろうが、案内表示の増設や既存サインの大型化など、劇場側の工夫によるところも大きいといえる。
- 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、11年度は97%まで上昇し、12年度も97%を維持している。

### ③スタッフの対応や電話対応等に関する満足度

- 03年度から満足度の高かった「劇場係員の対応」は、継続して高い満足度を保っており、12年度も99%と満足層の割合は非常に高い。また、「電話予約・チケットカウンターの対応」の満足度は97%で、劇場の顧客対応は高い評価を受けている。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- 「チケットの予約・購入のしやすさ」は、03年度は53%と満足度項目のうち最も低かったが、04年度に73%に上昇、その後年々満足度は上昇し、オンラインチケット購入システムを導入した11年度は90%、12年度にはやや下降して98%となっている。

### ④飲食に関する満足度

- 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、12年度は86%となっている。

## B-3 施設の維持管理

### ①施設の維持管理

- 貸館利用者を対象としたアンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。特に、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台設備・機器は充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」については、「はい」への回答が90%以上と大変高い評価となっている。また、05年度(利用者調査開始年度)以降、多くの項目で満足度は向上しており、劇場スタッフの努力がうかがえる。

### ②稼働率

- 施設稼働率は、大ホールが82%、中劇場が74%、小劇場が80%である。
- 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移しており、2012年度の(財)地域創造の悉皆調査結果(2010年10月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は72%)と比較しても高い水準にある。

## C. 経営

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

### C-3 経営努力

#### ①外部資金、チケット収入の割合

- 北九州芸術劇場の12年度の事業費は約2億1,000万円。財源内訳をみると、チケット収入が全体の47%、市の補助金が40%、文化庁と(財)地域創造、協賛金による外部資金が13%となっている。
- チケット収入の割合は、2007年の(財)地域創造の悉皆調査結果による全国平均の試算値(事業収入:37%)を大幅に上回っている。外部資金の割合についても、北九州芸術劇場の実績は全国平均(11%)を上回っている。

#### ②事業収支からみた経営努力

- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に関する積極的な経費削減(団体割引の適用等)の努力が行われていることが数字からうかがえる。
- 12年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約240万円の減収、補助金等収入は約4,800万円の減収となっており、事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。

### 3. 事業評価の結果から—今後の事業評価の方向性と検討課題

北九州芸術劇場の事業評価調査では、03年度の開館年度から図表5-2のと通りの調査を行ってきた。

図表5-2 北九州芸術劇場における実施調査

調査内容	03 年 度	04 年 度	05 年 度	06 年 度	07 年 度	08 年 度	09 年 度	10 年 度	11 年 度	12 年 度
<b>【継続調査】</b>										
劇場運営基礎データの収集・分析										→
観客調査(アンケート)										→
貸館利用者を対象としたアンケート調査 (実施:05年度～、整理・分析:07年度)			- - -	- - -						→
経済波及効果の算出										→
パブリシティ効果の把握										→
<b>【テーマ調査】</b>										
専門家による座談会(開場から1年間の 劇場運営の成果について)		○								
市民意識調査(アンケート)			○							
ワークショップ参加者を対象とした学芸調 査(アンケート/グループインタビュー)		○								
学校を対象とした学芸調査(アンケート)					○					
(舞台芸術の公演による)劇場使用者へ のグループインタビュー				○						
劇場スタッフへのグループインタビュー						○				
北九州芸術劇場の広域的役割と長期的 ビジョンに関するグループインタビュー							○			
舞台芸術以外の分野から見た北九州芸 術劇場の役割(座談会)								○		
北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、 文化・芸術環境の変化										○

最後に、今後の事業評価を継続する上で、検討・留意すべきだと考えられる事項を、次の7点に整理した。

### ①継続調査

経年変化による劇場運営、事業に関する満足度やニーズの分析のためにも、上記5つの継続調査を引き続き実施し、データや情報を蓄積することが望まれる。

### ②地域や市民への効果を把握するための定性調査

また、劇場が地域や市民に与える波及効果や影響を把握するため、定性調査の実施も検討したい。近年、劇場と地域との連携がより強く求められる中、①観客(あるいはチケットクラブ会員)、②創造事業や市民参加事業に参加した市民、③地域(市民センターなど)でのアウトリーチ事業参加者などを対象としたグループインタビューや聞き取り調査を行い、劇場運営や事業に関する詳細な意見、成果を把握する機会が必要だと考えられる。また、2005年度の市民意識調査の実施から8年が経過していることから、今後タイミングを見て、同様の市民調査の実施を検討する必要もあるだろう。

### ③劇場内部での事業評価の活用

2008年度の劇場スタッフへのグループインタビューからは、①この事業評価調査の結果も含めて、劇場内で蓄積しているデータを有効に活用していくこと、②評価結果について、係を越えた情報共有や振返りの機会を持つこと、が必要だという声が多かった。今後は、評価本来の目的である PDCA サイクル(Plan→Do→Check→Action)をより有効に機能させるためにも、事業評価調査の結果を現場での業務の振返りに有効活用するとともに、データの収集や整理にあたって、スタッフのより積極的な関わりを促していくことが重要だと考えられる。

### ④評価結果の公表と発信

北九州芸術劇場は、ホームページ上で劇場の運営方針を広く周知し、事業評価調査の報告書(本編)をホームページで公開するなど、市民へのアカウントビリティに努めている。今後、評価結果も含め、劇場運営や事業の成果に関する市民への情報発信をより一層強化するとともに、市民からの意見を聴取するためのしくみづくりを検討していく必要があるだろう。また、開館10周年という節目にあたり、これだけの長期間の評価の蓄積は、全国の公立文化施設や文化政策にとっても意義深い取り組みだと言える。公共劇場や文化関係者の間でその成果を共有するためにも、より積極的な公表や発信が望まれる。

### ⑤次の戦略構築への活用

また、次の北九州芸術劇場の戦略構築のために、これまでの事業評価の結果を活用することが望まれる。2009年度のグループインタビュー調査、2010度の座談会では、これまでの劇場の事業や運営を高く評価するとともに、それらを継続するだけではなく、次の目標設定とそれに向けた取り組みの必要性を指摘する意見があった。開館から10年が経過し、開館当初に設定した目標が徐々に達成されつつあることを考えると、ミッションの再確認や見直し、それに基づいた事業や運営方針の再検討も視野に入れた取り組みが期待される。

### ⑥事業評価の再構築

前述した「次の北九州芸術劇場の戦略」に基づく事業評価の再構築も視野に入れたい。戦略や目標を設定し直せば、その評価のあり方も再検討する必要がある。この数年間、劇場に対する観客や貸館利用者の評価は、多くの項目で高評価となっている一方で、批評的な観点からの課題や新たな要望が見えにくくなっている点も否めない。また、観客や利用者以外の市民、舞台芸術以外の芸術分野、あるいは劇場周辺の地域を越えて、多様なステークホルダー(利害関係者)との関係を広げていくことが2010度の座談会でも期待されている。ま

た近年、文化政策や文化プログラムなどの事業評価の手法そのものが変化しており、評価の理論的なフレームワークとして用いられることの多いロジック・モデルの手法(序章参照)などを北九州芸術劇場の事業評価にも取り入れることも考えられる。その試行として、次章ではこれまでの10年間の事業評価の主要な項目を、結果(アウトプット)、短期的・中長期的な成果(アウトカム)、直接的・間接的な影響や効果(インパクト)に分けて整理した。それらも踏まえた上で、評価の視点、指標のあり方、分析手法などについて見直し、評価フレームを次の段階へと進化させることが望まれる。

#### ⑦次の10年を見据えた総括

北九州芸術劇場は、2013年8月に開館10周年を迎えた。これまでの事業評価の結果を見ると、その間、北九州芸術劇場は、積極的な事業や運営を継続、進化させ、それが観客をはじめとした市民や地域からの評価に結びついてきたと言える。開館後数年間で減速する公共劇場が少なくない中、10年間、開館当初のコンセプトに基づいて一定水準の事業や運営を継続してきたこと自体、高く評価すべきであろう。その実績に甘んじることなく、次の10年の継続とさらなる飛躍を達成するため、次章の「北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化」では、10年間の事業や運営の成果、評価を総括した。

図表5-3 政策評価フレームに基づいた評価結果一覧

※この評価結果一覧は、(財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～12年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。  
 ※事業評価の結果を、定量評価(事業実績データ、アンケート調査データ)とともに、定性評価(グループインタビュー等)の結果も含めて総合的に整理した。  
 ※「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準を網羅することを目的とはせず、基本フレームを活用することにより、北九州芸術劇場の事業実績や運営の状況を、体系的に把握することを目的としている。  
 ※したがって、「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準とはすべてが一致するものではない。また、段階評価(達成度合いを自己点検できる解説式のモデル指標)項目については、劇場内部の自己評価であることから本報告書では掲載対象外としている。

A: 劇場の設置目的

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[ ]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-0 「創る」 「育つ」 「観る」	① 劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等	・ 劇場では、開館年度から「創る」「育つ」「観る」の3つを運営方針として設定。 ・ [専門家との座談会/10年度]では、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。	・ 3つの運営方針への支持率は、観客、市民、九州圏域や全国の劇場関係者からも高い。 ・ 一方で、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくべきとの意見も。	・ 劇場内部での、事業評価結果を活用したPDCAサイクルの実現のための議論の場の設定、きっかけづくり。 ・ 観客調査の継続。 ・ 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。
	② 劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)	・ 運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれも開館年(03年)度から90%以上。 ○12年度 創る:96%、育つ:95%、観る:99% [観客調査/12年度] ・ 一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。 ○創る:81%、育つ:90%、観る:90% [市民調査/05年度] ※ 支持率は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。割合(%)は小数点以下を四捨五入して掲載。	・ 事業評価データ等を活用し、係を超えた振返りの機会づくりが必要。	・ 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
	③ 事業や運営に対する自己評価や振返り、運営データの蓄積	・ 業務の振返り、データを蓄積・活用して評価や業務にフィードバックしていくことが必要だという認識が高い。 [劇場スタッフへのグルイン/08年度]	・ 運営方針に基づいた長期的な事業の継続により、地域に浸透。	・ 「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
	④ 市民の劇場の認知度や劇場への意見	・ 市民の劇場の認知度(劇場があることを「知っている」と回答した割合)は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。[市民調査/05年度] ・ 劇場に来場経験を持つ市民を増やすこと、劇場の存在を肯定的に考えてくれる市民を増やすことは、劇場スタッフへのグルインでも、業務を超えた共通の問題意識。[劇場スタッフへのグルイン/08年度]	・ 北九州市の人口(12年4月1日現在)は約97万人であり、すでに人口の3倍近くの利用者が来場。	
	⑤ 劇場の来場者(利用者)数	・ 年間来場者(利用者)数は、05年度から09年度まで毎年27～28万人で推移。10年度は1年間で31万人に増加したが、12年度は28万人。開館からの10年間で延べ281万人が来場。		
A-1 「観る」 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供します	① ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施	・ 小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊、ミュージカル・商業演劇など幅広いラインナップの公演事業を実施。 ・ 09年度から北九州芸術劇場が注目する演劇人たちをバックアップする「Tドエmeets北九州」を立ち上げた。 ・ 多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場。 ○年齢層 29歳未満:20%、30歳代:21%、40歳代:24%、50歳代:20%、60歳以上:14% 平均年齢:43歳。 ○北九州芸術劇場での鑑賞経験 今日が初めて:25%、1～2回:15%、3～5回:20%、6回以上:40% ・ 北九州市域外(北九州市内+北九州近隣地域を除く)からの観客が12年度は過去最高の割合となった。 ○06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%[観客調査/12年度]	・ 小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客を集客。 ・ 公演事業全体で極めて高い入場率。「観る」に対する観客・市民の支持率、公演内容に関する観客の満足度も極めて高い。	・ 観客調査の継続。 ・ 観客の意識やニーズを詳細に把握するための調査の実施。
	② 年間延べ観客数	・ 12年度の公演事業は18事業、公演回数は43回、入場者数は18,517人である。入場率は93%。 ・ 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、38事業、公演回数は102回、入場者数は29,458人である。入場率は90%。	・ 「観る」という方針では、福岡市と何らかの機能分担をした上で、「創る」や「育つ」に重点を置いていくことも、将来のひとつの方向性だと考えられる。	・ 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
	③ 公演に対する観客の満足度	・ 開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著。満足層の割合は98%。「公演のチケット料金」への満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。 ・ 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。) ○公演内容 03年度:96%⇒04:96%⇒05:97%⇒06:97%⇒07:98%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:97%⇒11:98%⇒12:98% ○公演のチケット料金 03年度:86%⇒04:88%⇒05:92%⇒06:90%⇒07:92%⇒08:93%⇒09:93%⇒10:91%⇒11:94%⇒12:94% [観客調査/12年度] ・ 「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。[専門家との座談会/10年度]	・ 公演事業の質に対する信頼感の形成と、他都市からの観客の吸引力。 ・ 北九州市域外からの観客も増加しており、九州の鑑賞拠点として、劇場が認知・評価されている。中長期的な市内と市域外との集客バランスの検討。	
	④ 鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価	・ 公演事業での劇場使用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度] ・ [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、魅力的なものと呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。 ・ [全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]では、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。	・ 観客調査のアンケートにおける無回答の割合が増加している。	

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[ ]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<b>A-2</b> <b>【創造系事業】</b> <b>「創る」</b> 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創るにより、「ものづくりの街」北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます	① ミッションに基づいた創造系事業の実施 ② 年間延べ観客数 ③ 創造系事業の公演に対する観客の満足度 ④ 創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。</li> <li>・開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。</li> <li>・プロデュース作品「LAND→SCAPE/海を眺望→街を展望」は東京(4回)で公演を行った。</li> <li>・12年度は、5事業で22回の公演が行われ、入場者は3,847人。入場率では平均で82%。</li> <li>・「リーディングセッションvol.21」で101%、「わたしの青い鳥2012」で84%となっている。創造系事業の全5事業のうち4事業で入場率が80%を超えている。</li> <li>・鑑賞系事業③を参照</li> <li>・北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグリーン/06年度]</li> <li>・[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグリーン/09年度]でも、利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。</li> <li>・[専門家との座談会/10年度]では、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。</li> <li>・[全国の劇場関係者へのグリーン/09年度]では、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い入場率を確保。市民に事業が定着していること、地域からの注目度の高さがうかがえる。</li> <li>・「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。</li> <li>・九州圏域や全国に視野を広げても、北九州芸術劇場の「創る」事業には大きな期待が寄せられている。</li> <li>・今後の北九州芸術劇場の運営にとって、アジアとのつながりは重要な戦略の一つと考えられる。</li> <li>・美術館との共同制作など、舞台芸術以外の分野との協働の模索。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観客調査の継続。</li> <li>・創造系事業参加者の意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。</li> <li>・有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。</li> </ul>
<b>A-3</b> <b>【普及系事業①】</b> <b>「育つ」</b> アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指します	① ミッションに基づいた普及系事業の実施 ② 年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数 ③ 講座・ワークショップ参加者の満足度 ④ 参加者が事業から得たもの(事業の効果)ー講座・ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及系事業を継続的に実施。12年度も、 ○「アーティスト往来プログラム」として、多彩な講師を招いた「インリーチ」、「アウトリーチ」 ○創造参加として、合唱物語「わたしの青い鳥」、「北九州バントマイム教室」、「公共ホール演劇ネットワーク事業」、「シアターデモ」などの多様なプログラムを実施。</li> <li>・「シアターデモ」は、創造工房を中心に32回の講座と4回のモデル公演を開催した。受講人数は68人、受講延人数・入場者数は693人であった。</li> <li>・12年度は、学芸事業全体で15事業、203回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数の合計は5,900人。 ※受講(入場)者数でカウントすると2,631人</li> <li>・11年度と比べると、アクティビティの回数、参加者数ともに増加している。</li> <li>・講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。[学芸調査・アンケート/04年度] ○参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度 満足層:98%、うち「たいへん満足」:56% ○「たいへん満足」の割合が高い項目 講座・ワークショップの内容(63%)、講師(72%)、劇場関係員の応対(63%)</li> <li>・講座やワークショップに参加したこと、参加者は次のような効果があったと感じている。 [学芸調査・アンケート/04年度] 「人間関係に広がり生まれた」(67%)、「演劇やダンスに新たな興味をわいた」(65%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(57%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(50%)、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」(43%)など。</li> <li>・グループインタビューでも、鑑賞事業だけでは得られない深い効果を指摘する声が多い。 [学芸調査・グリーン/04年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。</li> <li>・ワークショップや講座参加者の事業に対する満足度は極めて高く、参加したことや鑑賞活動や日常生活の中に多様な効果が生まれている。</li> <li>・学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業参加者、関係する地域・施設等を対象とした意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。</li> <li>・有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。</li> <li>・長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。</li> </ul>
<b>A-4</b> <b>【普及系事業②】</b> アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)	① 他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容 ② 学校等と連携したプログラム数と参加者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09年度から小学生から一般市民を対象としたアウトリーチ事業として、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」事業を立ち上げ、地域との連携を強化した。11年度は3ヶ年計画の3年目で、20回のワークショップで参加延人数が440人、公演「冬の盆」は2回行い、242人の入場者であった。</li> <li>・12年度に実施した「日韓子ども演劇キャンプ」では、北九州芸術劇場と韓国・富平アートセンターでワークショップを行い、作品発表会を韓国で行った。</li> <li>・12年度に実施した「アーティスト往来プログラム」は、市内小学校教師を対象とした「インリーチ」と市内の小学校などの「アウトリーチ」を実施した。小学校7校、高校といった教育機関以外に、企業や様々な公共空間でも活動を展開した。</li> <li>・学校との連携事業への評価 [小学校を対象としたアンケート調査/07年度] ○事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。 ○具体的には、 ・自分の考えや気持ちを表現する力:80% ・豊かな感受性や想像力:61% ・人とコミュニケーションする力:52% については、効果を実感している先生が多い。 ○先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(72%)等の効果を実感。 ○事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い(連携したいと思う割合:83%)。</li> <li>・12年度に実施した「アーティスト往来プログラム」では計46回、参加延人数・入場者数1,178人、受講(入場者数)655人で、小学校での開催は30回、参加延人数・入場者数823人、受講(入場者数)404人となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。</li> </ul>

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[ ]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<b>A-5</b> <b>[市民文化活動支援]</b> 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など	① ミッションに基づいた市民活動支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やアウトリーチを実施。</li> <li>12年度は、創造参加として、「ツドエmeets北九州vol.8『ワタシんち、通過。のち、ダイジェスト』、合唱物語「わたしの青い鳥2012」、「北九州パントマイム教室」、「二兎社+公立劇場共同制作『こんぼんは、父さん』(トークイベント)」などの7事業で32回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は1,843人。</li> <li>「わたしの青い鳥2012」、「北九州パントマイム教室」の2事業は、03年度、04年度からの継続事業。</li> <li>[専門家との座談会/10年度]では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参加型事業には継続事業が多く、市民からの支持がうかがえる。</li> <li>貸館事業における専門的、技術的支援については、ほぼ100%の高い評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸館調査の継続。</li> <li>市民参加型事業、アマチュア支援に関する調査手法の検討。</li> <li>閉館以降継続してきた事業の参加者に対するインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。</li> </ul>
	② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸館利用者への専門的・技術的アドバイスについては、「技術スタッフの応対がよかった」は99%の大変高い満足度。</li> <li>関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台設備・機器は充実している」はともに100%の高い満足度。[貸館調査/12年度]</li> </ul>		
<b>A-6</b> <b>[地域への貢献①]</b> 地域経済などへの波及効果	① 地域外からの来場者割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>06年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、12年度は38%と過去最高の割合となっている。</li> <li>○地域外からの来場者割合 06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38% [観客調査/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州市域外からの来場者が増加していることは、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の認知度、評価が向上しているものと考えられる。</li> <li>観劇に伴う観客の消費活動も活発。劇場の事業規模に応じた経済効果が発生している。</li> <li>今後、集客のためにも、より劇場と地域(北九州の街、近隣商店街、大学等)との連携を深めるための、積極的な方策の検討が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域(地域経済)への波及効果の測定手法、評価項目の検討。</li> <li>継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。</li> <li>所得増、雇用増、税収増の試算。</li> <li>貸館事業に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。</li> <li>閉館以降の地域(地域経済)へのインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。</li> </ul>
	② 公演鑑賞に伴う消費行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、12年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は53%。毎年ほぼ60%で推移。</li> <li>飲食をしている場合の平均金額は約1,500円、ショッピングの場合は約5,000円。[観客調査/12年度]</li> </ul>		
	③ 経済波及効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>12年度の経済波及効果を算出すると、               <ul style="list-style-type: none"> <li>○最終需要                   <ul style="list-style-type: none"> <li>劇場の管理運営:約6.6億円、主催事業:約2.1億円、主催事業の観客の消費支出:約1.7億円 (参考値)貸館事業に基づいた最終需要:約4.9~5.6億円 ※試算</li> <li>○経済波及効果 約15.4億円 (参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果:約6.9~7.8億円 ※試算</li> </ul> </li> <li>経済波及効果の誘発係数は、                   <ul style="list-style-type: none"> <li>○管理運営・主催事業・主催事業観客消費支出:1.48</li> <li>○貸館を含めた消費支出:1.45</li> </ul> </li> <li>04年度以降、運営管理・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45~1.48で推移。</li> <li>雇用効果は、就業者ベースで145~154人、雇用者ベースで128~136人。</li> </ul> </li> </ul>		

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[ ]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<b>A-7</b> <b>【地域への貢献②】</b> 地域アピール、ブランド力のアップ	① シビックプライドの醸成  ② パブリシティ効果  ③ 劇場・ホールの存在を肯定的に考えている市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。</li> <li>その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/10年度]</li> <li>北九州芸術劇場や劇場事業に関する11年度の記事掲載件数は106件で、過去最少の掲載件数となったが、その要因は東日本大震災を扱った記事が長期間紙面を占めたことが考えられる。12年度の記事掲載件数は122件。</li> <li>122件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、12年度は約1億800万円(11年度:約9,300万円)。「山海塾」、「LAND→SCAPE/海を眺望→街を展望」、「サンプル」、「ハイバイ」といった公演事業の紹介記事のほか学芸事業や貸館事業に関する紹介記事の割合が増えたことも、12年度の大きな特徴となっている。学芸事業では、「日韓子ども演劇キャンプ」や「市民共同リーディング」の取材記事、貸館事業では、3月には1年前に発生した東日本大震災に関連する公演が数多く紹介されている。</li> <li>市民調査では、「これからの時代に必要施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。</li> <li>劇場開設の効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。一方で、「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」という意見も多い(44%)。[市民調査/05年度]</li> <li>劇場スタッフのインタビューでは、広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのが、今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/08年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月コンスタントに掲載されていること、全国紙・地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がり进行评估。</li> <li>新聞掲載記事の広告宣伝費への換算金額は、市の事業に対する補助金(約8,600万円)を上回る規模であり、北九州芸術劇場の事業や運営が高いパブリシティ効果を生み出している。</li> <li>北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、広い北九州市域の中で、劇場や劇場事業に関する情報をいかに市民に届けるかが検討課題。</li> <li>北九州のシンボル、シビックプライドとしての評価の高まり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より精緻なパブリシティ効果の測定手法、および劇場の情報発信力を把握する評価手法の検討。</li> <li>長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。</li> <li>市民の劇場への意識・ニーズをより詳細に把握するための評価手法の検討。</li> </ul>
<b>A-8</b> <b>【広域施設としての役割発揮】</b> 圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします *「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定	① 圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携  ② 当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。</li> <li>「シアターコラボ」「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]</li> <li>北九州芸術劇場の事業が、福岡市にも波及している。福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要である。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]</li> <li>国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ビジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]</li> <li>12年度は韓国・仁川(インチョン)広城市の富平(プジョン)区富平アートセンターとの協働による両国の小学生を対象としたアウトリーチ事業として、日韓子ども演劇キャンプ「チャレンジ! えんげき2012」のワークショップと交流プログラムを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、北九州芸術劇場が九州圏域に果たす役割には、より一層の期待が高まっている。</li> <li>「北九州モデル」としての成功を、他の地方自治体に発信・波及させながら、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくことが必要。</li> <li>国や他の地方自治体(とくに九州圏域の県や市)との緩やかな連携も視野に入れて、地域版アーツカウンシルとしてのあるべき姿や北九州芸術劇場の位置づけを検討していくことが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域施設の役割を担うための「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。</li> </ul>

**B: 管理運営**

※この評価結果一覧は、(財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～12年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[ ]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
B-1	① ミッションに基づいた貸館事業の実施	・ 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づける方向性。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的な満足度、今後の利用意向ともに100%近い割合であることは、利用者からの大きな評価。</li> <li>・ 貸館事業のソフトに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貸館調査の継続。</li> <li>・ 利用者の満足度に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。</li> </ul>
	② 貸館における入場者数	・ 12年度の貸館公演・講演は247事業。計319回の公演・講演が行われ、入場者数は169,359人。		
B-2	① 公演や催し物情報に関する満足度	・ 開館年度(03年度)に満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、11年度の満足層は90%、12年度は89%となっている ○公演情報の入手のしやすさ 03年度:65%⇒04:73%⇒05:78%⇒06:79%⇒07:81%⇒08:86%⇒09:87%⇒10:85%⇒11:90%⇒12:89%[観客調査/12年度]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高い満足度は堅持し、低い満足度は大きく改善している。開館から10年が経過し、観客が劇場や鑑賞活動に慣れてきたこともあろうが、劇場側の工夫と努力が大きいと考えられる。</li> <li>・ 劇場のホスピタリティ・サービスに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観客調査の継続。</li> <li>・ 観客の意識・満足度・ニーズ把握に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。</li> </ul>
	② ホスピタリティに関する満足度	・ 開館年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、11年度は90%、12年度は89%であった。 ・ 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、11年度は97%まで上昇し、12年度も97%を維持している。 ○案内表示 03年度:69%⇒04:74%⇒05:77%⇒06:79%⇒07:82%⇒08:87%⇒09:88%⇒10:89%⇒11:90%⇒12:89% ○デザイン・雰囲気 03年度:88%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:93%⇒07:94%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97% [観客調査/12年度]		
	③ スタッフの対応や電話応対等に関する満足度	・ 「電話予約・チケットカウンターの対応」「劇場係員の対応」への満足度は大変高い。「劇場係員の対応」については、開館年度から90%以上の満足度を維持、12年度は99%であった。 ・ 開館年度(03年度)に満足度が低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、12年度には89%の満足度となっている。 ○劇場係員の対応 03年度:92%⇒04:97%⇒05:98%⇒06:97%⇒07:97%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:98%⇒11:99%⇒12:98% ○電話・チケットカウンター 03年度:80%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:92%⇒07:93%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97% ○チケットの予約購入 03年度:53%⇒04:73%⇒05:79%⇒06:80%⇒07:83%⇒08:90%⇒09:86%⇒10:84%⇒11:90%⇒12:89% [観客調査/12年度]		
	④ 飲食に関する満足度	・ 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、12年度は86%となっている。 ○飲食サービス 03年度:73%⇒04:78%⇒05:79%⇒06:77%⇒07:80%⇒08:83%⇒09:86%⇒10:86%⇒11:88%⇒12:86% [観客調査/12年度]		
B-3	① 施設の維持管理	・ 貸館調査でも、劇場の施設や設備などハード面で利用者からの満足度は大変高いが、搬入・搬出のしやすさについては複合施設でエレベーターを使用することから、他の項目に比べて満足度は低い。満足層の割合は次のとおり。 ○館内は清潔に保たれていた:100% ○ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよ:100% ○舞台設備・機器は充実している:100% ○設備・機器などを安全に使用できた:100% ○劇場の広さ(客席数)がちょうどよい:98% ○楽屋など舞台裏の施設が使いやすい:97% ○搬入・搬出がしやすい:96% [貸館調査/12年度]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 劇場利用者からの施設・設備の維持管理に関する評価は大変高く、今後も安心・安全な施設利用への取り組みが望まれる。</li> <li>・ スタッフからは、中長期の修繕計画が課題としてあげられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貸館調査の継続。</li> <li>・ 利用者の評価に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。</li> <li>・ 施設の維持管理に関する詳細調査の検討。</li> </ul>
	② 稼働率	・ 施設稼働率は、大ホールが82%、中劇場が74%、小劇場が80%である。 ・ 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移。全国平均(専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は72%)と比較しても高い水準。		

**C:経営**

※この評価結果一覧は、(財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～12年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[ ]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p>C-3</p> <p><b>【経営努力】</b></p>	<p>① 外部資金、チケット収入の割合</p> <p>② 事業収支からみた経営努力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12年度事業費は約2億1,000万円。財源内訳は、チケット収入:約1億円(47%)、外部資金:約2,800万円(13%)、市の補助金:約8,600万円(40%)。</li> <li>チケット収入と外部資金の03年度からの比率をみると次のとおり。               <ul style="list-style-type: none"> <li>○チケット収入 03年度:54%⇒04:43%⇒05:37%⇒06:61%⇒07:52%⇒08:42%⇒09:65%⇒10:68%⇒11:53%⇒12:47%</li> <li>○外部資金 03年度:18%⇒04:20%⇒05:22%⇒06:14%⇒07:14%⇒08:15%⇒09:8%⇒10:15%⇒11:12%⇒12:13%</li> </ul> </li> <li>全国平均の試算値と比較すると、チケット収入割合(全国平均:37%)が平均を大幅に上回る。外部資金の割合についても、北九州芸術劇場の実績が全国平均(11%)を上回っている。</li> <li>12年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約240万円の減収、補助金等収入は約4,800万円の減収となっており、事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。</li> </ul>	<p>・チケット収入の割合の高さなど、劇場の営業努力、運営努力の成果として評価。</p>	<p>・継続したデータ収集・分析の実施。</p> <p>・詳細調査の必要性の検討、実施。</p>

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

## 第6章 北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化

今年度のテーマ調査では、以下の既存の統計調査によるデータと、2003年度から12年度までの10ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価の中から「A.設置目的」の評価項目を比較することで、10年間の結果(アウトプット)、成果(アウトカム)、波及効果(インパクト)について検証し、次なる戦略や評価軸の検討材料とする。

### 1. 基礎調査データの収集項目と参考資料

収集項目	参照資料	調査対象範囲				調査年(経年推移)	事業評価との比較や検証のポイント	
		全国	福岡県	北九州市	市内7区			
<b>◎人口・産業</b>								
人口等基本集計								
人口、人口増減	国勢調査	○	○	○	○	2000, 2005, 2010	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口、移動人口、従業地・通学地等の推移について、県、市、市内7区での比較</li> <li>将来推計人口(総人口、年齢別人口)の推移について県、市、市内7区を比較</li> <li>就業者数、事業所数、従業員数等の推移について、県、市、市内7区の比較</li> <li>観光客数、コンベンション参加者数等の推移 ↓</li> <li>劇場の来場者(利用者)数、貸館事業における入場者数等の推移</li> <li>経済波及効果、公演鑑賞に伴う消費行動、地域外からの来場者割合等の比較 ↓</li> <li>ミッション(評価フレーム A-0)の検証</li> <li>地域への貢献(A-6)の検証</li> </ul>	
年齢別人口割合	国勢調査	○	○	○	○	2000, 2005, 2010		
移動人口、従業地・通学地による人口								
現住都道府県による5年前の常住地(転入)	国勢調査		○	○		2010		
5年前の常住都道府県による現住地(転出)	国勢調査		○	○		2010		
常住地又は従業地・通学地	国勢調査		○	○	○	2010		
将来推計人口								
総人口および指数(平成22年=100とした場合)	国立社会保障・人口問題研究所		○	○	○	2010, 2015, 2020, 2025, 2030, 2035, 2040		
年齢別人口割合(0~14歳、15~64歳、65歳以上)	国立社会保障・人口問題研究所	○	○	○	○	2010, 2015, 2020, 2025, 2030, 2035, 2040		
就業者、事業所、従業員数								
産業(大分類)別15歳以上就業者数	国勢調査	○	○	○		2000, 2005, 2010		
事業所数及び従業員数	事業所・企業統計調査、経済センサス(総務省)	○	○	○	○	2001, 2006, 2009		
1km <sup>2</sup> 当たり事業所数及び従業員数	事業所・企業統計調査、経済センサス(総務省)		○	○	○	2009		
産業(大分類)別事業所数及び従業員数	事業所・企業統計調査、経済センサス(総務省)		○	○	○	2009		
観光、コンベンション								
観光地点の観光客数(実人数)	北九州市統計年鑑(北九州市)			○		2007-2011		
コンベンション開催状況	北九州市統計年鑑(北九州市)			○		2007-2011		
<b>◎文化・芸術</b>								
文化芸術活動の経験								
文化芸術の直接鑑賞経験	文化に関する世論調査(内閣府)	○				1996, 2003, 2009	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・芸術活動の経験、重要性の推移の把握</li> <li>子どもの文化・芸術体験、重要度の把握</li> <li>社会生活における文化・芸術関連活動の把握</li> <li>社会教育施設の利用状況の推移の把握 ↓</li> <li>鑑賞系事業・創造系事業における年間延べ観客数、公演に対する観客の満足度の推移</li> <li>普及系事業①、②の事業数、回数、参加人数、満足度の推移</li> <li>貸館事業に関するサービス内容、質への評価の推移 ↓</li> <li>鑑賞系事業(A-1)、創造系事業(A-2)、普及系事業(A-3)、普及系事業②(A-4)、市民文化活動支援(A-5)の検証</li> </ul>	
美術館・博物館での鑑賞経験	文化に関する世論調査(内閣府)	○				2009		
鑑賞を除く文化芸術活動の経験	文化に関する世論調査(内閣府)	○				2009		
子どもの文化芸術体験								
子どもの文化芸術体験	文化に関する世論調査(内閣府)	○				2009		
子どもの文化芸術体験の重要度	文化に関する世論調査(内閣府)	○				2009		
子どもの文化芸術体験に重要な事項	文化に関する世論調査(内閣府)	○				2009		
文化・芸術の重要性								
日常生活における文化芸術の体験・活動	文化に関する世論調査(内閣府)	○				2009(1996, 2003に同主旨の設問)		
文化芸術への支援と社会の活性化・経済振興との関係	文化に関する世論調査(内閣府)	○				2009		
文化芸術振興のために国に力を入れてほしい事項	文化に関する世論調査(内閣府)	○				2009		
社会生活(学習・自己啓発・訓練、趣味・娯楽)								
学習・自己啓発・訓練の種類別行動者率、平均行動日数	社会生活基本調査(総務省)	○	○	△		2001, 2011		
趣味・娯楽の種類別行動者率、平均行動日数	社会生活基本調査(総務省)	○	○	△		2001, 2011		
施設利用状況								
社会教育施設等利用状況	北九州市統計年鑑(北九州市)			○		2002-2011		
図書館の利用状況	北九州市統計年鑑(北九州市)			○		2002-2011		

収集項目	参照資料	調査対象範囲				調査年(経年推移)	事業評価との比較や検証のポイント
		全国	福岡県	北九州市	市内7区		
<b>◎県民・市民意識</b>							
<b>県民意識</b>							
文化・スポーツ振興のために行政に力を入れてほしいこと	福岡県民意識調査(福岡県)		○	△		2012, 2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・芸術活動の振興に対する市民の評価、要望の推移の把握</li> <li>↓</li> <li>パブリシティ効果の推移の把握</li> <li>シビックプライドの醸成、劇場・ホールの存在を肯定的に考えている市民の割合</li> <li>↓</li> <li><b>地域への貢献②(A-7)の検証</b></li> </ul>
観光振興のために行政に力を入れてほしいこと	福岡県民意識調査(福岡県)		○	△		2012, 2013	
地域振興のために行政に力を入れてほしいこと	福岡県民意識調査(福岡県)		○	△		2013	
国際交流行政に力を入れてほしいこと	福岡県民意識調査(福岡県)		○	△		2012, 2013	
<b>市政評価、市政要望</b>							
芸術・文化活動の振興に関する市政評価の推移	市民意識調査(北九州市)			○	○	2002-2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・芸術に関わる振興策に対する県民の要望の把握</li> <li>↓</li> <li>圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携、当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興</li> <li>↓</li> <li><b>広域施設の役割の発揮(A-8)</b></li> </ul>
芸術・文化活動の振興に関する市政要望の推移	市民意識調査(北九州市)			○	○	2002-2013	
芸術・文化活動の振興に関する属性別の評価	市民意識調査(北九州市)			○	○	2002-2013	
芸術・文化活動の振興に関する属性別の要望	市民意識調査(北九州市)			○	○	2002-2013	
芸術・文化活動の振興に関する評価と要望の類型化	市民意識調査(北九州市)			○	○	2002-2013	
<b>市民意識(地域活動)</b>							
地域活動への参加の有無	地域福祉に関する市民意識調査(北九州市)			○		2010	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動や若者意識に関する市民意識調査結果からの地域特性の把握。</li> <li>↓</li> <li>文化・芸術に関する市民意識調査結果からの北九州芸術劇場に関わる特性の把握。</li> <li>↓</li> <li><b>ミッション(A-0)の検証</b></li> </ul>
地域活動活性化の方法	地域福祉に関する市民意識調査(北九州市)			○		2010	
地域の伝統的な行事への参加の有無	地域福祉に関する市民意識調査(北九州市)			○		2010	
<b>市民意識(若者意識)</b>							
北九州市への愛着度	「若者意識調査」アンケート(北九州市)			○		2012	
北九州市の将来像	「若者意識調査」アンケート(北九州市)			○		2012	
北九州市での定住意向	「若者意識調査」アンケート(北九州市)			○		2012	
理想的な都市のイメージ	「若者意識調査」アンケート(北九州市)			○		2012	
定住促進のための行政等が力を入れるべき施策	「若者意識調査」アンケート(北九州市)			○		2012	
理想とする都市のソフト面の要素	「若者意識調査」アンケート(北九州市)			○		2012	
北九州市の補強すべき点(ソフト面)	「若者意識調査」アンケート(北九州市)			○		2012	

## 2. ロジックモデルに基づいた北九州芸術劇場の10年間と、社会情勢や文化・芸術環境の変化

北九州芸術劇場の事業評価の中から「A.設置目的」の評価項目ごとに、2003年度から12年度までの10年間の実績について、事業を実施することによって生み出された結果(アウトプット)、アウトプットによってもたらされる短期的・中長期的な成果(アウトカム)、事業を実施することによってもたらされる直接的・間接的な影響や波及効果(インパクト)、または今後の期待に分けて整理した。併せて、既存の統計調査による社会情勢や文化・芸術環境の主な変化を評価項目ごとに整理し、北九州芸術劇場の10年間の実績と対比した。

評価大項目	北九州芸術劇場の10年間			社会情勢、文化・芸術環境の主な変化
	結果(アウトプット)	成果(アウトカム)	波及効果(インパクト)、または今後の期待	
A-0 [ミッション] 「創る」「育つ」「観る」	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間来場者(利用者)数は、開館からの10年間で累計2,810,839人が利用した。このうち、自主事業での累計の利用者数は557,365人である。北九州市の人口(12年3月31日現在)は約972,713人であり、すでに市の人口の3倍近くの利用者が来場している。[実績調査/12年度]</li> <li>12年度の自主事業全体で、38本の事業・305回の公演・アクティビティが行われ、28,316人が公演鑑賞やアクティビティに参加した。[実績調査/12年度]</li> <li>自主事業の観客は、女性が76%、男性が24%と女性が多く、年齢層は、29歳未満:20%、30歳代:21%、40歳代:24%、50歳代:20%、60歳以上:14%で大きな偏りはない。平均年齢は43歳。[観客調査/12年度]</li> <li>市民の劇場の認知度(劇場があることを「知っている」と回答した割合)は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。[市民調査/05年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれも開館年(03年)度から90%以上。[観客調査/03～12年度]</li> <li>北九州市民のアンケート調査では、一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。北九州芸術劇場に来場・利用するようになっての鑑賞活動や日常生活での変化は、「劇場・ホールで鑑賞する機会が増えた」(28.2%)、「生活の中で芸術文化に触れる機会が増えた」(21.6%)等、回答は多様である。年齢別にみると、若い年齢層に比べて、60歳代、70歳代以上で「普段出会えない人に出会えるなど、人間関係に広がり生まれた」の割合が高い。[市民調査/05年度]</li> <li>同じく市民アンケート調査では、「これからの時代に必要な施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。[市民調査/05年度]</li> <li>「創る」「育つ」「観る」という劇場のミッションについては、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、高く評価している。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008年度、財団法人地域創造による「JAFRAアワード(総務大臣賞)」を受賞。受賞理由は『『創る』『育つ』『観る』をコンセプトに演劇事業を展開。オリジナル作品のプロデュース、地域文化リーダーとなる若手演劇人の育成、小中学校での表現教育プログラム、多彩な鑑賞事業など、総合的なプログラムを展開し、地域に立脚した公立劇場のあり方を提示した』とされている。</li> <li>2011年度、文化庁による優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業(重点支援劇場・音楽堂)に採択された(全国で12施設)。</li> <li>今後も引き続き文化・芸術を取り巻く環境の変化が予測される中で、公立文化施設のあり方として「北九州モデル」を提示することで、他の地方自治体(とくに政令市レベルの都市)に対する良い刺激となることが期待されている。[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州市では、全国や福岡県の状況と比べて、先行して人口減少が始まっていることが分かる。全国、福岡県と比べると老年人口の割合が高く、生産年齢人口と年少人口の割合が低い。[国勢調査/10年]</li> <li>北九州市の場合、5年前から常住地が北九州市内に留まっている割合は91.3%である。自市内の従業・通学の割合は88.3%と、福岡県全域に比べて高い割合となっている。[国勢調査/10年]</li> <li>北九州市が行っている施策や事業項目の中から、「芸術・文化の振興」の「以前に比べてかなりよくなっている」とする得点や順位について2002年から2013年までの推移を見ると、北九州芸術劇場が開館した2003年度が最も高い。「芸術・文化の振興」の「今後、もっと力を入れてほしい」の得点や順位の推移を見ると、2010年度が最も高い。[市民意識調査/02～13年]</li> </ul>
A-1 [鑑賞系事業] 「観る」…観る楽しさを 知ってもらうため、国内 外のエンターテインメント 性や芸術性の高い作品を 招き、市民に様々な公演 を提供します	<ul style="list-style-type: none"> <li>小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊、ミュージカル・商業演劇など幅広いラインナップの公演事業を実施。</li> <li>12年度の公演事業は18事業、公演回数は43回、入場者数は18,517人である。入場率は90.2%。創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、38事業、公演回数は102回、入場者数は29,458人である。[実績調査/12年度]</li> <li>10年間の公演事業(鑑賞系事業全体)の事業数は累計335事業、公演数は累計1,078公演、入場者数は累計405,620人となっている。この入場者数は北九州市の人口の42%に相当する。[実績調査/12年度]</li> <li>10年間の主催・提携・協力事業に関する新聞記事掲載件数は累計671件、パブリシティ効果を金額換算すると、累計約7億1,300万円となる。[パブリシティ効果/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著で、満足層は03年度の95.6%から12年度の98.2%まで向上してきた。「公演のチケット料金」の満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度に反映していると考えられる。[観客調査/12年度]</li> <li>公演事業での劇場使用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声が大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度]</li> <li>市民アンケート調査では、北九州芸術劇場に公演鑑賞のために来場したことがある場合、北九州芸術劇場ができる以前から舞台芸術を鑑賞していたかどうかについては、「はい」が78.1%、「いいえ」が21.9%で、北九州芸術劇場が鑑賞のきっかけになった人も約20%となっている。[市民調査/05年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏や関西の劇団・カンパニーからは、北九州芸術劇場の開館以降、九州の公演拠点ができ、定期的に九州公演を行うようになったという意見が共通している。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度]</li> <li>北九州芸術劇場の運営方針や舞台芸術への取り組み姿勢を評価し、「公共ホールとしてどうあるべきかを考えている劇場」、「1回は劇場に行ってみようと思う人をどのくらい増やせるか。お客さんとのネットワークづくりが今後の劇場・ホール全体の課題であり、北九州芸術劇場はそれができる劇場」であると、期待の声が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度]</li> <li>「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。[専門家との座談会/10年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間に、ホール・劇場、映画館、美術館・博物館などに出向いて直接鑑賞した文化芸術は何か聞いたところ、九州では「鑑賞したことがある」割合が58.3%で、全国の62.8%を下回っている。[文化に関する世論調査/09年]</li> <li>1年間に、美術館・博物館に何回くらい行ったか聞いたところ、九州では「行った」とする者の割合が39.4%で、全国の42.2%を下回っている。[文化に関する世論調査/09年]</li> <li>趣味・娯楽活動のうち、北九州・福岡大都市圏(北九州市、福岡市)における「演芸・演劇・舞踊鑑賞」(テレビ等は除く)の行動者率は11.1%、行動日数は7.9日となっている。行動者率は全国、福岡県に比べて若干低い、行動日数は全国、福岡県に比べて若干多い。[社会生活基本調査/11年]</li> <li>「演芸・演劇・舞踊鑑賞」の行動者率と行動日数を2001年と2011年で比較すると、「全国」、「福岡県」、「北九州・福岡大都市圏」ともに2001年から2011年にかけて行動者率が減少している。その一方で、行動日数では「全国」、「福岡」、「北九州・福岡大都市圏」のいずれも増加していることが分かる。[社会生活基本調査/11年]</li> </ul>

評価大項目	北九州芸術劇場の10年間			社会情勢、文化・芸術環境の主な変化
	結果(アウトプット)	成果(アウトカム)	波及効果(インパクト)、または今後の期待	
<p>A-2</p> <p><b>【創造系事業】</b></p> <p>「創る」…北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。</li> <li>● 12年度は、5事業で22回の公演が行われ、入場者は3,847人。入場率では平均で82%。[実績調査/12年度]</li> <li>● <b>10年間の創造事業の事業数は累計54事業、公演回数は累計341公演、入場者数は累計101,283人</b>となっている。</li> <li>● 創造事業のうち、北九州芸術劇場以外の会場での公演は、累計138公演(うち東京都内の公演が108公演)、入場者数は累計59,685人(うち東京都内の入場者数は47,621人)となっている。<b>東京や大阪など北九州芸術劇場以外の会場での入場者数が、累計入場者数全体の59%(東京都内の公演の入場者は47%)</b>となっており、北九州芸術劇場での入場者数を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本を代表する演劇界の登竜門である岸田國士戯曲賞、紀伊國屋演劇賞、文化庁芸術祭・芸術祭新人賞、日本劇作家協会新人戯曲賞などを受賞した優れた劇作家、演出家、スタッフ、俳優を起用すると同時に、<b>北九州市、福岡県、九州圏域における地域の演劇人の育成も視野に入れたオリジナルの公演を数多く生み出した。</b></li> <li>● 06年度は、山海塾、パリ市立劇場、<b>北九州芸術劇場共同プロデュースによる「時のなかの時—とき」が朝日舞台芸術賞のグランプリを受賞し、創造事業が国際的にも高く評価された。</b></li> <li>● 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから、「プロデュース事業等に関わることで役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度]</li> <li>● 劇場利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナルティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、<b>次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。</b>[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]</li> <li>● 座談会の参加者それぞれの専門の立場から、舞台芸術以外の分野との北九州芸術劇場との協働の可能性について、前向きな意見が多く聞かれた。特に北九州市立美術館の館長から、今後も美術館と劇場との協働の可能性が示唆された。[専門家との座談会/10年度]</li> <li>● それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だと意見も出された。[専門家との座談会/10年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「あなたは、5年後の北九州市にどのようなことを期待しますか」という質問に対して、「文化や芸術、スポーツが盛んなまち」は13.5%で、24項目のうち、6位に位置している。[『若者意識調査』アンケート報告書/12年]</li> <li>● 「あなたが考える北九州市の補強すべき点(ソフト面)は何ですか」という質問に対して、「文化的水準の向上」は14.0%で、12項目のうち、8位に位置している。</li> <li>● 2012年に制定された劇場・音楽堂等の活性化に関する法律では、第四条(劇場、音楽堂等を設置し、又は運営する者の役割)として、<b>「劇場、音楽堂等を設置し、又は運営する者は、劇場、音楽堂等の事業を、それぞれその実情を踏まえつつ、自主的かつ主体的に行うことを通じて、実演芸術の水準の向上等に積極的な役割を果たすよう努めるものとする。」</b>と明文化している。</li> </ul>
<p>A-3</p> <p>「育つ」…アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指します</p> <p><b>【普及系事業①】</b></p> <p>主に劇場内で実施するワークショップや講座など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 劇場内に学芸係を設置し、多様なプログラムの普及系事業を継続的に実施。</li> <li>● 12年度の学芸事業は16事業行っており、ほとんどのプログラムで、劇場内と劇場外の両方で展開するプログラムとなっている。そのうち、劇場内での実施回数は147回で、参加延人数・入場者数は3,809人となっている。[実績調査/12年度]</li> <li>● <b>10年間の学芸事業の実施回数は累計2,341回、参加者数は累計57,761人</b>となっている。[実績調査/12年度]</li> <li>● 10年間の学芸事業に関する新聞記事掲載件数は累計145件、パブリシティ効果を金額換算すると、累計約1億円となる。[パブリシティ効果/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度は、満足層：98%、うち「たいへん満足」：56% となっている。[学芸調査・アンケート/04年度]</li> <li>● <b>講座やワークショップに参加したことで、参加者には「人間関係に広がり生まれた」(67%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(65%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(57%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(50%)、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」(43%)といった効果があったと感じている。</b>[学芸調査・アンケート/04年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 九州圏域の劇場関係者や演劇人は、北九州芸術劇場が人材育成面で果たす役割について非常に高く評価している。これまで、学芸事業が手掛けてきたワークショップでは、<b>九州圏域や全国からトップクラスの俳優・ダンサーや劇作家・演出家が多数起用されており、参加者は非常にレベルの高い事業への参加が可能</b>となっている。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]</li> <li>● 劇場運営の将来を見据えた場合、劇場が連携できる外部の制作会社等の設立を視野に入れた人材の育成、学芸事業に必要なコーディネーターの育成も課題と言える。こうした人材は、九州圏域、さらには中国・山陰地方を視野に入れながら育成し、北九州で学んだ人材が各地に戻っていくことで、劇場間のネットワークが構築されることも期待できよう。[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>日常生活の中で優れた文化芸術体験をしたり、自ら文化芸術活動を行ったりすることについて、どのように思うか聞いたところ、九州では、「大切だ」とする割合が89.4%(全国では88.5%)</b>となっている。[文化に関する世論調査/09年]</li> <li>● 子どもが今までにどのような文化芸術体験を行ったことがあるか聞いたところ、九州では「学校における公演などの鑑賞体験」を挙げた者の割合が49.3%(全国では59.0%)、「地域の文化施設における、鑑賞や学習」の割合が47.9%(全国では44.6%)、「学校における演劇などの創作体験」の割合が39.7%(全国では39.8%)となっている。[文化に関する世論調査/09年]</li> <li>● 子どもの文化芸術体験について重要だと思うか聞いたところ、九州では「重要である」の割合が91.7%(全国では93.1%)で、10ブロックのうち8番目となっている。[文化に関する世論調査/09年]</li> </ul>

評価大項目		北九州芸術劇場の10年間			社会情勢、文化・芸術環境の主な変化
		結果(アウトプット)	成果(アウトカム)	波及効果(インパクト)、または今後の期待	
A-4	<p><b>〔普及系事業②〕</b> アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (A-3の再掲)10年間の学芸事業の実施回数は累計2,341回、参加者数は累計57,761人となっている。[実績調査/12年度]</li> <li>● 09年度から小学生から一般市民を対象としたアウトリーチ事業として、「エンゲキで私イキキ、地域イキイキ」事業を立ち上げ、地域との連携を強化した。11年度は3ヶ年計画の3年目で、20回のワークショップで参加延人数が440人、公演「冬の盆」は2回行い、242人の入場者であった。[実績調査/11年度]</li> <li>● 12年度の学芸事業のうち、劇場外での実施回数は56回で、参加延人数・入場者数は2,091人となっている。[実績調査/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校との連携事業への評価として、事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感している。具体的には、「自分の考えや気持ちを表現する力」(80%)、「豊かな感受性や想像力」(61%)、「人とコミュニケーションする力」(52%)については、効果を実感している先生が多い。[小学校を対象としたアンケート調査/07年度]</li> <li>● 先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(72%)等の効果を実感。事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い(連携したいと思う割合:83%)。[小学校を対象としたアンケート調査/07年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北九州芸術劇場に今後実施してほしい活動では、「子どもや高齢者等を対象とした活動を充実してほしい」が45.4%で、年齢別では、30歳代と40歳代で「学校や福祉施設などとの協力関係を強化してほしい」、「子どもや高齢者等を対象とした活動を充実してほしい」の割合が他の年齢層に比べて高い。[市民調査/05年度]</li> <li>● アウトリーチや市民センターでのワークショップ、北九州演劇フェスティバルで京町銀天街での展開など、劇場以外の場での活動の広がりを高く評価する意見が多く聞かれた。新聞記事や実際の現場を目撃した市民の間で話題となり、幅広い市民の認知を広げていることがうかがえる。[専門家との座談会/10年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの文化芸術体験について何が重要だと思うか聞いたところ、九州では「学校での公演等の鑑賞体験を充実させる」が59.1%(全国では58.3%)、「学校における演劇などの創作体験を充実させる」が36.9%(全国では38.1%)となっている。[文化に関する世論調査/09年]</li> <li>● 北九州市内各区の将来推計人口を見ると、人口の減少幅は区によって大きく異なり、八幡東区では2010年に対する2040年の人口が68.4%とおよそ3分の2となっている。[国立社会保障・人口問題研究所]</li> <li>● 2040年に北九州市では、全国や福岡県に比べて老年人口の割合が高く37.7%という推計となっている。高齢化がとくに顕著なのが門司区と八幡東区で、2040年には老年人口が4割を超える予測となっている。[国立社会保障・人口問題研究所]</li> </ul>
A-5	<p><b>〔市民文化活動支援〕</b> 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やアウトリーチを実施。</li> <li>● 10年間の貸館事業における施設の利用件数、利用者数は、利用件数が累計8,983件、利用者数が累計2,253,474人となっている。この利用者数は北九州市の人口の2.3倍に相当する。[実績調査/12年度]</li> <li>● 10年間の貸館事業に関する新聞記事掲載件数は累計444件、パブリシティ効果を金額換算すると、累計約2億5,200万円となる。[パブリシティ効果/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから、日常的なスタッフの対応やアドバイスを評価する声が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度]</li> <li>● 「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。[専門家との座談会/10年度]</li> <li>● 貸館利用者による劇場の使いごちに関する総合的な満足度で、満足層の割合は、08年度の97.6%から12年度の99.4%まで、極めて高い満足度を維持している。「機会があればまた利用したい」については、「はい」が93.9%と高い割合を占めている。[貸館調査/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから、「どうすれば芝居がよくなるかを真剣に考えてくれる」、「だめだとは言わずに、どうしたらいい方向に持っていけるかアドバイスしてくれる」、「劇場の使い方やルールがわかった」といった意見が多数聞かれ、若手の育成という面でも、スタッフの取組み姿勢や経験が与える影響は大きい。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度]</li> <li>● 北九州芸術劇場が地域や地元劇団にもたらした変化や効果として、福岡と北九州、あるいは劇団相互の連携ができ始めたということが共通の意見としてあがった。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1年間に、鑑賞を除いて、自分で創作・参加したり文化芸術体験を支援する文化ボランティアの活動を行ったりするなど、文化芸術に関わる活動をしたことはあるか聞いたところ、九州では「特に行ったことはない」の割合が75.0%(全国では76.1%)となっている。[文化に関する世論調査/09年]</li> <li>● 学習・自己啓発・訓練に分類される活動のうち、北九州・福岡大都市圏(北九州市、福岡市)における「芸術・文化」の行動者率は9.0%、平均行動日数は、75.3日となっている。[社会生活基本調査/11年]</li> <li>● 北九州市の社会教育施設全体の利用人員数の推移は、2010年度は800万人を超えている。1施設あたりの平均利用人員数を見ると、2004年度以降は北九州芸術劇場が最も多い平均利用人員数となっている。[北九州市統計年鑑/02～11年]</li> </ul>
A-6	<p><b>〔地域への貢献①〕</b> 地域経済などへの波及効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 06年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市を初めとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、10年度をピークに11年度は減少したが、12年度は過去最高となった。地域外からの来場者割合 06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%。地域外からの来場者は、ダンス・現代舞踊、小劇場・現代演劇で割合が多い。[観客調査/12年度]</li> <li>● 鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、12年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は53%(毎年ほぼ60%で推移)。飲食をしている場合の平均金額は1,509円、ショッピングの場合は約5,027円。[観客調査/12年度]</li> <li>● 主催事業の観客の消費支出(飲食・買物費、交通費、宿泊費)にともなう最終需要のうち、北九州市内における年間の最終需要金額は、約9,100万円となっている。[経済波及効果/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「北九州演劇フェスティバル2011」以降、京町銀天街内に商店街の空き店舗を活用した「京町小屋」の開設や、リバーウォーク北九州での「おやじカフェ」の出店など、積極的に施設の外側に事業を展開し、小倉都心部の回遊性を高め、にぎわい創出やメディアでの情報発信に大きく貢献している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 12年度の経済波及効果を算出すると、劇場の管理運営の最終需要は約6.6億円、主催事業:約2.1億円、主催事業の観客の消費支出:約1.7億円、貸館事業に基づいた最終需要(参考値):約4.9～5.6億円で、それらの経済波及効果は約15.4億円、(参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果:約6.9～7.8億円)。</li> <li>● 04年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45～1.48で推移。雇用効果は、就業者ベースで145～154人、雇用者ベースで128～136人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2001年の事業所数を100とした場合の2009年の指数は、福岡県が100.0、北九州市が96.3、全国が95.2となっている。2001年の従業員数を100とした場合の2009年の指数は、福岡県が107.4、北九州市が105.0、全国が104.5となっている。[事業所統計・経済センサス/00, 05, 10年]</li> <li>● 北九州市内の観光地点の観光客数は、2007年から2010年までは年間1,160万～1,180万人で推移していたが、2011年に974万人に落ち込んだ。[北九州市統計年鑑/07～11年]</li> <li>● 北九州市内のコンベンションの開催件数は、2007年の3,218件から2011年の4,655件まで増加し続けている。参加者の総数は、2007年の1,014万人から2011年の1,225万人まで、全体的には増加傾向にある。[北九州市統計年鑑/07～11年]</li> <li>● 文化芸術への金銭的・人的その他の支援を行うことにより、人々が文化芸術により親しむことができるようになり、それにより培われた感性や創造性を発揮することで、社会の活性化や経済振興に貢献するとの考え方について、どのように思うか聞いたところ、九州では「そう思う」が82.9%となっている。[文化に関する世論調査/09年]</li> </ul>

評価大項目		北九州芸術劇場の10年間			社会情勢、文化・芸術環境の主な変化
		結果(アウトプット)	成果(アウトカム)	波及効果(インパクト)、または今後の期待	
A-7	<p><b>【地域への貢献②】</b> 地域アピール、ブランド力のアップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州芸術劇場や劇場事業に関する12年度の記事掲載件数は122件で、演劇や舞台に関する批評・紹介欄で、公演事業に関する記事が掲載されている。また、学芸事業や貸館事業に関する紹介記事の割合が増えたことも、12年度の大きな特徴となっている。[パブリシティ効果/12年度]</li> <li>122件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、12年度は約1億800万円(11年度:約9,300万円)。[パブリシティ効果/12年度]</li> <li>10年間の北九州芸術劇場の事業に関する新聞記事掲載件数は累計で1,560件、パブリシティ効果を金額換算すると、累計で約14億8,800万円となる。[パブリシティ効果/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民アンケート調査では、「北九州芸術劇場についてあなたはどのように思われますか」との質問に対して「誇りに思う」との選択肢が15.9%だった。[市民調査/05年度]</li> <li>市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。[専門家との座談会/10年度]</li> <li>北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。[専門家との座談会/10年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのが、劇場スタッフの今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/08年度]</li> <li>劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/10年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動への参加の有無を調査したところ、なんらかの地域活動に参加している市民は約3割となっている。どうすれば地域活動が活性化すると思うか聞いたところ、「地域活動に関する情報が入手しやすい仕組みを充実する」は45.6%、「興味・関心のある地域活動を自由に体験できる仕組みをつくる」が40.2%となっている。[北九州市地域福祉に関する意識調査報告書/09年]</li> <li>「あなたは、北九州市に愛着・親しみを感じていますか」という質問に対して、愛着・親しみを感じている若者は78.1%（「ある程度感じている」45.9%、「とても感じている」32.2%）を占めている。[『若者意識調査』アンケート報告書/12年]</li> <li>「あなたは、将来も北九州市に住みたいと思いますか」という質問に対して、「ずっと北九州市に住み続けていきたい」の割合が34.4%で最も高く、次いで「当分は北九州市に住んでいたい」が31.9%となっており、これらの合計は66.3%を占めている。[『若者意識調査』アンケート報告書/12年]</li> </ul>
A-8	<p><b>【広域施設の役割発揮】</b> 圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします *「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(A-6の再掲)06年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市を初めとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増え続け、10年度をピークに11年度は減少したが、12年度は過去最高となった。地域外からの来場者割合 06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%。地域外からの来場者は、ダンス・現代舞踊、小劇場・現代演劇で割合が多い。[観客調査/12年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度]</li> <li>魅力的なものを呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]</li> <li>舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]</li> <li>将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]</li> <li>国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ビジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県の県民意識調査で、文化・スポーツ分野において、行政に対して力をいれてほしいことを聞いており、「文化芸術を鑑賞したり経験する機会の充実」が2013年調査は46.6%で、2012年調査の38.6%から割合が上昇している。[県民意識調査報告書/12～13年]</li> <li>観光振興のために行政に力を入れてほしいことについては、「九州が一体となった観光客誘致の取組み」が2013年調査は48.3%で、2012年調査の43.4%から割合が上昇している。[県民意識調査報告書/12～13年]</li> <li>国際交流行政に力を入れてほしいことについては、「芸術文化やスポーツでの交流」が2013年調査は41.2%で、2012年調査の35.1%から割合が上昇している。[県民意識調査報告書/12～13年]</li> </ul>

